

# 実 習 要 項

松村看護専門学校

# 実習要項目次

I. 臨地実習目的・目標	1
II. 実習科目・単位・時間数・実習施設	2
III. 実習記録	3
IV. 実習評価	3
V. 実習ガイド	4
VI. 患者のプライバシーや情報の保護	7
VII. ヒヤリ・ハットおよび事故発生時の対処	10
VIII. 臨地実習における患者の同意	13
IX. 看護技術チェック表	13
X. 各看護学実習	
基礎看護学実習	14
地域・在宅看護論実習	24
成人看護学実習	33
老年看護学実習	44
小児看護学実習	58
母性看護学実習	66
精神看護学実習	75
看護総合実習	81
追加資料	87

## I. 臨地実習目的・目標

### 【目的】

学内で学習した知識・技術・態度を統合し、あらゆる健康レベルやライフステージにある対象に看護を実践できる基礎的能力を養う。

### 【目標】

1. 対象を統合された存在として理解し、健康上のさまざまな問題や課題に対し科学的根拠に基づいた看護の展開ができる。
2. 臨地実習でのさまざまな経験を通し、豊かな人間性を育み自己の看護観を培うことができる。
3. 対象の尊厳を守り、看護専門職として倫理観に基づいた責任ある言動がとれるよう努めることができる。
4. 保健医療福祉チームの一員として看護の役割を認識し、多職種と連携・協働できる基礎的能力を身につける。

## Ⅱ. 実習科目・単位・時間数・実習施設

	実習科目	指定単位	学則単位	実習時間総数	実習時間	実習施設	実習学年
基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	4	2	180	90	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院	1年
	基礎看護学実習Ⅱ		2		90		2年
地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習	2	2	90	45	公益財団法人磐城済世会 おりづる訪問看護ステーション いわき地区保健福祉センター 広野町保健センター	3年
					30		
					15		
成人看護学実習	成人看護学実習Ⅰ	6	2	270	90	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院	2年
	成人看護学実習Ⅱ		2		90		2年
	成人看護学実習Ⅲ		2		90		公益財団法人磐城済世会 松村総合病院
老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	4	2	180	37.5	公益財団法人磐城済世会 長春館病院 社会福祉法人 以和貴会 聖徳荘	2年
	15				いわき市老人クラブ連合会		
	老年看護学実習Ⅱ		2		90	公益財団法人磐城済世会 長春館病院	3年
小児看護学	小児看護学実習	2	2	90	30	いわき市立保育所(園) いわき市医療センター 社会福祉法人 いわき福音協会 福島整肢療護園 実習オリエンテーション	3年
					30		
					22.5		
					7.5		
母性看護学	母性看護学実習	2	2	90	30	いわき市医療センター 特定非営利活動法人 Commune with 助産師 こみゅーん助産院 実践活動外の学内実習(実習オリエンテーションを含む)	3年
					15		
					45		
精神看護学	精神看護学実習	2	2	90	90	公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院	3年
看護総合	看護総合実習	3	3	135	135	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院	3年

### III. 実習記録

#### 1. 行動予定表

- 1) 1日の実習を計画的に行うためにそれぞれの実習で指定された行動予定表を記入する。
- 2) 行動予定表の目標や計画を実習指導者・担当教員などの確認を得て、その日の実習を開始する。
- 3) 実習終了後当日の行動予定表を記入し、および翌日の行動予定表の目標および計画をたてる。
- 4) 記入を終えた行動予定表は速やかに、実習指導者または担当教員へ提出し指導を受ける。

#### 2. 受け持ち患者記録

- 1) 受け持ち患者の看護実践記録である。
- 2) それぞれの実習で指定された受け持ち患者記録を用いて、看護過程の思考の整理を行い、よりよい看護実践につなげる。

### IV. 実習評価

1. 成績査定に関する細則第6条(受験資格)により、実習のその科目の時間数の 4/5 以上出席した者が評価の対象となる。ただし、その条件に満たない場合は、会議をもって対処を決定する。
2. 原則として中間評価と最終評価日に自己評価表を記入し、実習指導者および担当教員と共に評価を行う。
3. それぞれの実習科目の評価は、100点とする。内訳は、原則として実習目標の達成状況 70点、実習態度 30点の点数とする。
4. 成績査定に関する細則第3条(合格点)により、実習における成績の判定は実習評価基準に従い、各科目で総合判定が 60点をもって合格点とする。
5. 実習中に到達できたこと、次の実習の課題などについて明確にする。
6. 自己の実習の課題を達成できるように具体的に対策を講じ努力する。
7. 実習指導者および担当教員は、次のものを参考にして評価を行う。
  - ・ 看護援助
  - ・ 受け持ち患者記録
  - ・ 行動予定表
  - ・ 実習態度
  - ・ 自己評価表
  - ・ 看護技術チェック表
  - ・ カンファレンス
  - ・ 個人面接
  - ・ それぞれの実習で提示されたレポートなど

## V. 実習ガイド

### 1. 実習における遵守事項

- 1) 看護職の倫理綱領、学校や実習施設の規定、学生としての行動規範に従って行動する。
- 2) 学生という立場やできる範囲を認識し、対象に説明する。
- 3) 学生の能力では解決できないと判断した場合は、実習指導者・担当教員などに助言を求める。
- 4) 対象の選択権および自己決定権を尊重する。
- 5) 実施する看護の根拠・目的・方法について対象にわかるように説明する。
- 6) 実習指導者・担当教員などに報告・確認し、対象に必要な情報を対象に合わせた方法で提供する。
- 7) 実習指導者・担当教員などに報告・確認し、対象からの質問や要請に誠実に対応する。
- 8) 関係法規、学校のさまざまな規定および各実習施設の医療安全ガイドラインなどにに基づき行動する。
- 9) スタンダードプリコーションに基づき看護を行う。

### 2. 実習における学び方

- 1) 計画的に学習する。
  - (1) 実習の目的・目標をよく理解する。
  - (2) 事前学習を積極的に行って実習に臨む。
  - (3) 自分自身の学習計画を立て、学習する。
  - (4) 実習の場で学んだことを明らかにし、目的・目標の達成度を評価する。
- 2) 問題解決型の学習をする。
  - (1) さまざまな現象に疑問を持ち、解決できるように追求して学習する。
  - (2) 他の人のアドバイスを参考にする。
  - (3) 学内での学習および実習での学びをそれぞれにフィードバックさせる。
  - (4) グループメンバーのさまざまな体験から、学習を深める。

### 3. 実習方法

- 1) 実習オリエンテーションを担当教員から受ける。
- 2) 提示された事前学習を計画的に実施し実習初日に担当教員へ提出する。
- 3) グループメンバー全員そろって、毎日実習開始時と実習終了時に師長・実習指導者・スタッフに挨拶をする。
- 4) 時間外の実習を行う場合は、あらかじめ担当教員および実習指導者の許可を得る。

#### 4. 時間・期日の厳守

- 1) 開始時刻の5分前に、所定の場所に到着する。
- 2) 記録物等の提出期限を守る。

#### 5. 報告・連絡・相談

- 1) 欠席・遅刻をする場合は、7:30～7:45 の間に自分で学校に連絡を入れる。
- 2) 遅刻をした場合、実習場に到着したら、直ちに担当教員・実習指導者に報告する。
- 3) 早退をする場合、担当教員・実習指導者に報告し帰宅する。
- 4) 気分不快時は、早めに担当教員・実習指導者に申し出る。
- 5) グループリーダーは、担当教員・実習指導者・グループメンバーと反省会などの連絡調整を行う。
- 6) 実習中は、常に所在を明らかにしておく。
- 7) 実習中の行動の前後は必ず、担当教員・実習指導者・看護師に報告または相談する。
- 8) 患者からの贈り物は、相手の心情を傷つけないように、固く辞退する。断りきれない場合は、実習指導者・担当教員に相談する。
- 9) 事故発生時は、直ちに担当教員・実習指導者に報告する。
- 10) 実習中に患者から買物を依頼された場合は、実習指導者・担当教員に報告する。
- 11) 予測しない急激な状態変化があった場合、あわてず速やかに実習指導者またはスタッフ、担当教員に報告する。

#### 6. リーダー・サブリーダー

- 1) グループ内でリーダー・サブリーダーを置き、ローテーションする。
  - (1) リーダーの役割 : 担当教員・実習指導者・学生の連絡調整、反省会やカンファレンスの司会進行
  - (2) サブリーダーの役割 : リーダーのサポート、リーダー不在時の代理、反省会やカンファレンスの書記、実習記録類のとりまとめと提出

#### 7. カンファレンス

- 1) ねらい : 各自の学習や考え、体験を共有し、対象のよりよい看護を目指しさらに自己の看護に対する考えを深める。
- 2) 方法 : カンファレンスを実施する場合、事前に担当教員・実習指導者と日時、場所の確認をする。  
テーマの決定、資料の準備などは学生が積極的に行う。  
リーダー・サブリーダーの役割に従って進行する。

## 8. 挨拶・言葉使い

- 1) 状況に応じた挨拶をする。(時・場などを考慮する)
- 2) 礼儀正しく、丁寧な言葉を使う。
- 3) 学生間では、名字でお互い呼び合う。
- 4) 実習場での私語は慎む。

## 9. 身だしなみ(詳細は資料参照)

- 1) 清潔な決められた実習衣を着用する。
- 2) 下着は透けないもの、靴下は白のスクールソックスとする。
- 3) 名札・校章をつける。
- 4) 髪を整える。
- 5) 装飾品を付けない。
- 6) 爪を切る。
- 7) 香水等はつけない。
- 8) 化粧は、不快を与えない程度とする。
- 9) 男子学生は髭を剃る。
- 10) ケア実施時、カーディガンを着用しない。
- 11) 実習中の配膳時や学校内では、予防衣やエプロンを着用しない。

## VI. 患者のプライバシーや情報の保護

### 1. 誓約書について

実習における患者情報の取り扱いについて、学生は最初に誓約書(別紙)を学校長へ提出し、自分の言動に責任を持つことを誓う。

## 誓約書

私は、実習で知り得た患者のプライバシーおよび個人情報保護のため、以下の事項を厳守し、行動することを誓います。

(以下)

1. 情報は匿名化・記号化・番号化し、個人が特定されないよう留意して記録いたします。
2. 不必要な情報および不確実な情報は記録いたしません。
3. 実習記録やメモ等、患者情報が記入されている記録物は複写いたしません。また、患者情報のパソコンへの入力もいたしません。
4. 患者情報は、実習施設および学内において必要時以外話題にいたしません。また、それ以外の場所においては一切話題にはせず、携帯電話等通信機器での情報交換および保存も行いません。
5. 実習記録物の自宅持ち帰りを行う場合は、各実習施設で決められている用紙のみとし、紛失や交通機関での置き忘れ、自家用車への長時間放置等のないよう管理いたします。
6. 実習記録は、実習施設、学内、自宅(自室)で行い、実習関係者以外の目に触れることのないように管理いたします。帰宅途中および帰宅後も実習記録物は指定のファイルから外しません。
7. 万が一実習記録物やメモ類が紛失した際には、速やかに担当教員に報告いたします。

## 2. 患者情報の匿名化について

患者記録・パソコン等から情報を得る場合、氏名、生年月日、住所、電話番号、病院、病棟名、家族歴や遺伝情報等個人が特定されるような情報は記録せず、以下のとおり匿名化する。

- 1) 実習記録で「患者」を表現する場合は、記号または番号化する。

例：A氏、B氏など

- 2) 患者の住居環境は、特定されないよう記入する。

例：市内・市外や県外・県内など

- 3) 性別は記載してよい。

- 4) 年齢は年代で表す。

例：40歳代、70歳代後半など

- 5) 病院やクリニック、訪問看護ステーション・デイサービス等は特定できないようにする。

例：自宅近くのA医療機関を受診した

B医療機関での治療後、C医療機関に転院したなど

- 6) 現病歴および既往歴等の時期(年月)は特定されないよう記入する。

例：受け持ち時(年)をXとする。

令和4年3月に受け持ち開始となった場合は、

《現病歴》X年3月、外出中に転倒。A医療機関を受診した結果、大腿骨頸部骨折の診断を受け、手術目的で入院となる。

《既往歴》平成23年 高血圧症 ⇒ X-11年 高血圧症

令和2年 狭心症 ⇒ X-2年 狭心症

## 3. 患者情報を取り扱う上での厳守事項

- 1) 実習記録や学校指定の※メモは、必ず黄ファイルに綴じて使用する。「バイタルサイン用紙」および「行動予定表」は、実習中の使用時は青バインダーにはさんでよいこととするが、使用後はすみやかに黄ファイルへ綴じる。

- 2) 不必要な情報や不確実な情報は記入しない。

- 3) レポート及び評価以外はパソコンに入力しない。

- 4) 実習記録やメモ等、患者情報が記入されている記録物は複写しない。カンファレンス資料等に利用するために記録を複写した場合は担当教員へ提出し、処分を依頼する。原則として実習記録の複写は教員が行う。

- 5) 患者情報は、実習施設および学内において必要時以外話題にしない。また、それ以外の場所においては一切話題にはせず、携帯電話等通信機器での情報交換および保存も行わない。

- 6) 実習記録物や※メモ類は紛失しないよう各自管理し、下校時は指定された場所に保管する。

- 7) 万が一、実習記録物や※メモ類を紛失した場合は、速やかに担当教員に報告する。

※情報収集時のメモはA4サイズの用紙に記入し、必ず黄ファイルへ綴じる。

※実習衣ポケットに入れるサイズのメモ帳には、患者情報は記入せず学習内容のみ記入する。

#### 4. 自宅における実習記録の取り扱いについて

##### 1) 自宅学習の範囲は以下のとおりである。

《設置母体の病院・施設》…すべての記録用紙は持ち帰り可能

《いわき市医療センター》…「I号用紙」「バイタルサイン用紙」「患者基礎情報」以外

《その他の実習場》…実習オリエンテーションで教員に確認する

##### 2) 実習記録の記入は、実習施設内(実習によっては指示された場所)、学内、自宅(自室)で行い実習関係者以外の目に触れることのないように管理する。特に自室で記入する際には、家族にも情報が漏れることがないよう厳重に管理する。

##### 3) 持ち帰りの際には、交通機関での置き忘れや自家用車への長時間放置等のないよう管理する。

#### 5. 事故が発生した場合

実習で知り得た患者のプライバシーおよび個人情報については、規約に基づき厳重に取り扱うが、万が一事故が発生した場合は、学則第10章賞罰 第29条懲罰により、戒告・停学または退学処分の対象となるので留意する。

## VII. ヒヤリ・ハットおよび事故発生時の対処

### 1. 報告の意義

- 1) 人は誰でも間違いを犯す存在であり、誰にでも事故を起こす可能性がある。事故の要因は単に個人だけにあるのではなく、何が不足し、何が必要かを分析し、再発防止に役立てる。
- 2) 学生・実習指導者・教員が情報共有することで、危険への感受性と安全意識の向上に繋げる。

### 2. 報告・対処方法

- 1) 事故を起こした(事故レベル3)、またはヒヤリ・ハットを体験した(事故レベル0・1・2)学生はすみやかに実習指導者や担当教員に報告する。
- 2) 実習指導者や担当教員から適切な指示を受け、落ち着いて事故の処置を行う。
- 3) 事故の内容は担当教員の指示により、報告書を記載し担当教員へ提出する。
- 4) 適切な時期に、上記に関して実習指導者や担当教員より指導を受ける。

#### 《事故レベル》

レベル0	やりそうになったが、自分で気がついた	報告書不要
レベル1	やりそうになったが、他人に指摘され気がつき、防げた	報告書不要
レベル2	やってしまったが、患者に影響はなかった 例: 誤配膳だが食べていない、車椅子のストッパーのかけ忘れ、 物品の破損など	報告書必要
レベル3	やってしまっ、患者に影響があった 例: 誤配膳し食べてしまった 転倒、打撲、出血、チューブ類の抜去など	報告書必要

\* 報告書不要…報告し指導をうけるが、報告書は記載しない

#### 《口頭での報告ルート》

レベル0 : 学生は実習指導者・担当教員へ報告する

担当教員は実習調整者へ連絡する

レベル1 : 学生は実習指導者・担当教員へ報告する

担当教員は病棟師長・実習調整者へ報告する

実習指導者は病棟師長へ報告する

レベル2 : 学生は実習指導者・担当教員へ報告する

担当教員は病棟師長・実習調整者へ報告する

実習指導者は病棟師長へ報告する

\* 状況に応じ、担当教員・実習指導者は患者・家族へ説明と謝罪を行う

レベル3 : 学生は実習指導者・担当教員へ報告する

担当教員は病棟師長・実習調整者へ報告する

実習指導者は病棟師長へ報告する

\* 状況に応じ、担当教員・実習指導者・病棟師長は患者・家族へ説明と謝罪を行う

その他：報告を受けた実習指導者および担当教員は速やかに協議、調整、対応する。  
針刺し事故・感染事故などの場合は校医へ報告する。

- 5) 針刺し事故・剃刀による創傷受傷時は、すみやかに傷口を多量の流水で洗浄し、ペーパータオルで拭く。上記 1)～4)を実施する。

・引用文献

山田 静子他:看護学実習ヒヤリ・ハット防止マニュアル, 医歯薬出版(株), 2006;P18 .  
看護学教育 臨地実習指導者実践ガイド, 医歯薬出版(株), 2012;P184 .



## VIII. 臨地実習における患者の同意

1. 臨地実習同意書に関しては、実習施設の定められたものに準ずる。

## IX. 看護技術チェック表

1. 3年間で、習得しなければならない技術を明示したものである。
2. それぞれの技術の水準に到達できるように計画的に実習を進める。
3. 詳細は、看護技術チェック表を参照する。

# 基礎看護学実習

## 基礎看護学実習（4単位）

目的 看護の対象を理解し、看護実践の基礎的能力を養う。

### 目標

1. 患者と患者をとりまく環境について理解する。
2. 患者とのよい人間関係を成立させるために効果的なコミュニケーションを図ることができる。
3. 患者に必要な日常生活援助について理解する。
4. 看護過程を展開し、対象に必要な看護が実践できる。

### 実習区分

実習区分	単位/時間	時期	日数	主な実習施設
基礎看護学実習Ⅰ	2単位 (90時間)	1年生	4日	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院
			8日	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院
基礎看護学実習Ⅱ	2単位 (90時間)	2年生	12日	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院

## 実習内容

	基礎看護学実習 I	基礎看護学実習 II
対象	コミュニケーションがはかりやすい患者 重症ではなく複雑な合併症を持たない患者 日常生活援助を必要とする患者	コミュニケーションがはかりやすい患者 重症ではなく複雑な合併症を持たない患者 日常生活援助を必要とする患者
主な疾患	麻痺がありセルフケアができない 呼吸困難がありセルフケアができない 疼痛がありセルフケアができない 食欲不振がありセルフケアができない	呼吸器疾患(肺炎、気管支喘息など) 消化器疾患(胃潰瘍、胆嚢炎、胆石症、肝硬変、 癌、腸閉塞など) 内分泌疾患(糖尿病、脂質異常症など) 脳神経疾患(脳出血、脳梗塞、パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症、認知症など) 腎・泌尿器疾患(前立腺肥大症、前立腺癌、 膀胱癌、腎盂腎炎など) 運動器疾患(骨折、末梢神経障害など)
主な症状		運動麻痺、運動失調、感覚・知覚障害、 高次脳機能障害、呼吸困難、食欲不振、 嘔気、嘔吐、排尿・排便障害、 疼痛(胸痛・腹痛・頭痛・腰痛・関節痛など) 高血圧、倦怠感、浮腫、低血糖、高血糖、など
治療・検査	薬物療法、安静療法、食事療法、酸素療法、 リハビリテーション 経静脈栄養法、経管栄養法 一時的吸引、持続吸引 血液検査 胸部・腹部X線検査、CT検査、MRI検査 心電図検査	薬物療法、安静療法、食事療法、酸素療法、 リハビリテーション 経静脈栄養法、経管栄養法 一時的吸引、持続吸引 血液検査 胸部・腹部X線検査、CT検査、MRI検査 心電図検査
主な看護	日常生活拡大への援助 日常生活自立への援助 障害受容への援助 社会生活適応への援助 家族への援助 治療・処置・検査時の看護 苦痛の緩和 自己管理への指導	日常生活拡大への援助 日常生活自立への援助 障害受容への援助 社会生活適応への援助 家族への援助 治療・処置・検査時の看護 苦痛の緩和 社会資源の活用 自己管理への指導

## 基礎看護学実習 I

- |    |   |
|----|---|
| 目標 | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の機能する場として、病院の概要を理解する。</li> <li>2. 患者の治療を中心とした生活の場を知る。</li> <li>3. 入院している状況にある人を知る。</li> <li>4. 医療従事者を知る。</li> <li>5. 患者との良い人間関係を成立させるために効果的なコミュニケーションを図ることができる。</li> <li>6. 正確に体温・脈拍・呼吸・血圧測定ができる。</li> <li>7. 患者に必要な日常生活援助について理解する。</li> <li>8. 他者との関係を構築しながら、看護師になるための今後の学習課題を明確にできる。</li> </ol> |
|----|---|

目標	行動目標	内容
1. 看護の機能する場として、病院の概要を理解する。	1) 病院の目的・機能がわかる。	(1) 実習病院の使命
	2) 病院の組織と活動状況がわかる。	(1) 実習病院の組織、業務内容
	3) 病院の中での看護の果たす役割、他の部門との連携がわかる。	(1) 実習病院の看護部の組織、他部門との関係
	4) 各病棟、各部門の特性がわかる。	(1) 病院内の見学
2. 患者の治療を中心とした生活の場を知る。	1) 病棟の構造、設備がわかる。	(1) 病棟の構造、設備(ナースステーション、汚物処理室、浴室、洗面所、トイレ、非常口など)
	2) 病室の環境がわかる。	(2) 病室の構造(ベッド、床頭台、寝具類、ナースコール、中央パイピング、カーテンなど) (3) 病室内の環境(温度、湿度、照明、騒音など)
3. 入院している患者を知る。	1) 患者が受けている検査、治療についてその種類と目的がわかる。	(1) 検査(血液検査、心電図検査、X線検査、CT検査、超音波検査など)、治療(安静療法、食事療法、薬物療法、リハビリテーションなど)
	2) 患者が受けている看護援助がわかる。	(1) 看護活動の援助場面(バイタルサイン測定、環境整備、食事・清潔・排泄の援助など) (2) 教育的指導場面(入退院指導、療養生活指導、栄養指導、各オリエンテーションなど) (3) 診療の補助場面(診察、検査、与薬、処置など)
	3) 患者の日課がわかる。	(1) 患者の日課(起床・消灯時間、食事時間、安静時間など)
	4) 患者にあらわれている症状や苦痛を指導者とともに確認できる。	(1) 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面
4. 医療従事者を知る。	1) 患者をとりまく医療従事者の活動状況がわかる。	(1) 看護師、医師、介護福祉士、医療事務、検査技師、放射線技師、栄養士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士などの活動

目標	行動目標	内容
5.患者との良い人間関係を成立させるために効果的なコミュニケーションを図ることができる。	1)患者とコミュニケーションをはかることができる。	(1)あいさつ、身だしなみ、言葉遣い、距離、声の大きさ、開かれた質問、閉ざされた質問
	2)患者との関わりで受容的態度、共感的態度をとることができる。	(1)受容・共感・傾聴の姿勢
	3)プロセスレコードを用いて自己の傾向と患者の発言の意味を解釈できる。	(1)プロセスレコードの作成 (2)患者の思いと自分の考えのずれの明確化 (3)望ましいコミュニケーション (4)自己の傾向と課題の明確化
6.正確に体温・脈拍・呼吸・血圧測定ができる。	1)原理・原則に基づいて体温・脈拍・呼吸・血圧測定ができる。	(1)原理・原則の理解 (2)プライバシーの配慮、安全・安楽の必要性 (3)正常と異常値の判断 (4)報告
7.患者に必要な日常生活援助について理解する。	1)日常生活援助の必要性を知る。 2)患者の状態に応じた援助内容の選択方法を知る。	(1)日常生活援助技術の原理・原則の理解 (2)安静度、治療、症状による日常生活援助の必要性 (3)援助内容の選択方法 (4)安全・安楽、プライバシーの配慮
	3)日常生活援助について看護師と共に体験することができる。	(1)日常生活援助技術(環境整備、リネン交換、清潔、衣生活、排泄、食事、体位変換・移動)
8.他者との関係を構築しながら、看護師になるための今後の学習課題を明確にできる。	1)自己の考え・学びを表現できる。 2)他者の意見・学びを共有することができる。	(1)自己省察 (2)集団討議

#### <方法>

1. 事前に基礎看護学実習 I についてのオリエンテーションを受ける。
2. 病棟オリエンテーションを受ける。
3. 目標1～4については、4日間の実習とする。
4. 4日間実習では、指導者または病棟スタッフと行動を共にし見学を行う。
5. 目標5～7については、8日間の実習とし、受け持ち患者を1人受け持つ。
6. 受け持ち患者について必要な情報を得る。
7. 患者とのコミュニケーションの場面からプロセスレコードを用いて、分析・考察する。
8. 学生各自のコミュニケーション過程について、カンファレンスを行う。
9. 援助技術の体験をする。

#### <時間>

8:00～16:30

#### <提出物>

1. 目標1～4:レポート(学校指定のレポート用紙)
2. 目標5～7:行動予定表、プロセスレコード

実習計画  
基礎看護学実習 I

【松村総合病院実習:病院見学実習(1日目・2日目)】

今日の目標	1. 基礎看護学実習 I の目的・目標が理解できる。 2. 病院の目的・機能がわかる。 3. 病院の組織と活動状況がわかる。 4. 病院のなかでの看護の果たす役割、他の部門との連携がわかる。 5. 病院の構造・機能がわかる。	1. 病棟の構造・機能がわかる。 2. 病室の環境がわかる。 3. 患者の日課がわかる。 4. 患者に現れている症状や苦痛を指導者とともに確認する。 5. 患者が受けている検査、治療についてその種類と目的がわかる。 6. 患者が受けている看護援助がわかる。 7. 患者をとりまく医療従事者の活動がわかる。	
学生の行動	月日 月 日 ( )	月 日 ( )	
	午前	【学内】 基礎看護学実習 I オリエンテーション 実習病院オリエンテーション	【臨地】 挨拶 病棟オリエンテーション 病棟の構造、設備の見学 療養環境の見学 ケアの見学
	午後	病院見学	療養環境の見学 ケアの見学 カンファレンス 記録 挨拶
カンファレンス など		テーマ: 療養環境についての気づきや学び	

【松村総合病院実習:病院見学実習(3日目・4日目)】

今日の目標	1. 患者が受けている看護援助がわかる。 2. 患者に現れている症状や苦痛がわかる。 3. 患者をとりまく医療従事者の活動がわかる。	1. 実習目標に沿ってわかったこと、自分の考えや感想を記述することができる。 2. 時間厳守でレポートを提出できる。 3. 実習での学びをグループでまとめ、発表することができる。 4. 他者の学びを共有することができる。	
学生の行動	月日 月 日 ( )	月 日 ( )	
	午前	【臨地】 挨拶 ケアの見学	【学内】 記録のまとめ *10:30レポート提出
	午後	ケアの見学 カンファレンス 実習の振り返り 記録のまとめ 挨拶	実習のまとめ・発表
カンファレンス など	テーマ: 看護援助見学を通しての気づきや学び		

【松村総合病院実習:病院実習(1週目)】

今週 の 目 標		1. 病棟の概要を理解し、病棟の雰囲気慣れる。 2. 「今日の目標」を明確に表現することができる。 3. 患者とのコミュニケーションをとることができる。 4. 患者との関りで受容的態度、共感的態度をとることができる。 5. 原理・原則に基づいて体温・脈拍・呼吸・血圧測定ができる。 6. プロセスレコードを用いて患者の発言の意味を解釈できる。 7. プロセスレコードでの振り返りから自己のコミュニケーションの傾向を知る。 8. カンファレンスに積極的に参加できる。 9. 日常生活援助の必要な理由を知る。 10. 患者の状態に応じた援助内容の選択方法を知る。 11. 看護師と共に日常生活援助が体験できる。			
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 病棟オリエンテーション 患者紹介 ケアの見学 コミュニケーション	挨拶 行動予定発表 ケアの見学 バイタルサインの測定・ 報告 コミュニケーション	挨拶 行動予定発表 ケアの見学 バイタルサイン測定・ 報告 コミュニケーション	挨拶 行動予定発表 ケアの体験 バイタルサイン測定・ 報告 コミュニケーション
	午後	ケアの見学 コミュニケーション ショートカンファレンス 挨拶	プロセスレコードの作成 コミュニケーション ショートカンファレンス 挨拶	カンファレンス 挨拶	カンファレンス 挨拶
カンファレンス など				プロセスレコードの振り返り	プロセスレコードの振り返り

【松村総合病院実習:病院実習(2週目)】

今週 の 目 標		1. 「今日の目標」を明確に表現できる。 2. プロセスレコードでの振り返りを活かして、患者とのコミュニケーションを図ることができる。 3. 原理・原則に基づいて体温・脈拍・呼吸・血圧測定ができる。 4. 看護師と共に日常生活援助を体験できる。 5. プロセスレコードで自己のコミュニケーションの傾向と課題を明確に表現できる。 6. 実習目標に沿ってわかったこと、自分の考えや感想を記述することができる。 7. 時間厳守でレポートを提出できる。 8. 実習での自己の学びをカンファレンスで発言できる。 9. 他者の学びを共有することができる。			
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 行動予定発表 ケアの体験 バイタルサイン測定・ 報告 コミュニケーション	挨拶 行動予定発表 ケアの体験 バイタルサイン測定・ 報告 コミュニケーション	挨拶 行動予定発表 ケアの体験 コミュニケーション 評価	【学内】 記録提出 *10:30 実習のまとめ
	午後	ケアの体験 コミュニケーション ショートカンファレンス 挨拶	プロセスレコードの作成 コミュニケーション ショートカンファレンス 挨拶	コミュニケーション 評価 実習の振り返り 挨拶	実習のまとめ・発表
カンファレンス など				評価 ※評価は三者(学生・ 指導者・教員)で行う	

## 基礎看護学実習Ⅱ

- 目 標
1. 対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面及び発達課題を理解する。
  2. 看護過程の展開ができる。

目 標	行 動 目 標	内 容
1. 対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面及び発達課題を理解する。	1) 対象の身体的特徴を説明できる。	(1) ライフステージにおける対象の身体的特徴 (2) 対象の疾患に関する解剖・病態生理、症状 (3) 対象の疾患に関する検査、治療・処置
	2) 対象の社会的特徴を説明できる。	(1) ライフステージにおける対象の社会的特徴・役割
	3) 対象の精神的・スピリチュアルな特徴を説明できる。	(1) ライフステージにおける対象の精神的特徴・スピリチュアルな特徴 (2) 対象のQOL
	4) 対象の発達課題の特徴を説明できる。	(1) 成人期・老年期の発達課題 (エリクソン・ハヴィガースト)
2. 看護過程の展開ができる。	1) ヘンダーソンの基本的看護の構成要素に沿って情報を収集できる。	(1) ヘンダーソンの基本的看護の構成要素の枠組みによるデータベース (呼吸、飲食、排泄、姿勢・活動、睡眠・休息、衣服、体温・循環、清潔、安全、コミュニケーション、宗教、職業、レクリエーション、学習) (2) 主観的(S)情報・客観的(O)情報
	2) 分析解釈ができる。	(1) 収集した情報を正常・日常性と比較 (2) 逸脱した状態の明確化(充足・未充足の把握) (3) 原因・誘因の明確化 (4) 看護の方向性(3側面:知識・体力・意志力の充足状態から援助を考える) (5) 成り行き予測 (6) 文献を活用して科学的根拠に基づく分析解釈 (7) 関連図
	3) 看護上の問題を明確にできる。	(1) 潜在的・顕在的問題 (2) 優先順位の決定
	4) 看護計画が立案できる。	(1) 受け持ち期間中に達成可能な看護目標を設定 (2) 問題が解決されたときに患者に期待される症状、状態、態度、行動で表現 (3) O-P(観察計画)、T-P(直接的援助計画)、E-P(指導計画)の表現 (4) 安全・安楽、個別性・具体性を考慮
	5) 計画に基づいた実施ができる。	(1) 実施前の対象の観察 (2) 状態変化に応じた援助計画の中止・変更 (3) 安全・安楽を配慮した実施 (4) 実施中・後の患者の反応の観察 (5) 実施後の報告
	6) 評価ができる。	(1) 評価に必要な情報の収集 (2) 情報の意味を解釈 (3) 目標達成度を判断 (4) 目標達成度に影響したプラス/マイナス要因の抽出 (5) 目的が達成できない場合、看護過程の各段階が適切であったか検討 (6) 適切でなかった部分を修正し、再度実施し評価

<方法>

1. 事前に基礎看護学実習Ⅱについてのオリエンテーションを受ける。
2. 実習初日に病棟オリエンテーションを受ける。
3. 患者受け持ち制とし、1例受け持つ。
4. 看護過程のプロセスに基づいて看護を実施する。
5. 援助を行うときは、必ず指導者や教員と一緒に行動する。

<時間>

8:00～16:30

<提出物>

1. 行動予定表
  2. 受け持ち患者記録
  3. 自己評価表
  4. 看護技術チェック表
- \*提出物は記録日の16:30までに担当教員へ提出する

実習計画  
基礎看護学実習Ⅱ

【1週目】

今週の目標	1. 基礎看護学実習Ⅱの目的・目標が理解できる。 2. 基礎看護学実習Ⅱに関する基礎的知識や技術を確認することができる。 3. 病棟の雰囲気になれる。 4. 受け持ち患者とのコミュニケーションを図ることができる。 5. 自らの実習の目的を明らかにした行動予定を書くことができる。 6. 対象の身体的特徴・社会的特徴・精神的特徴・スピリチュアルな特徴を説明できる。 7. ヘンダーソンの基本的看護の構成要素に沿って情報を収集し、仕分けて整理することができる。 8. 分析解釈ができる。 9. 看護上の問題を明確にできる。 10. 状況にあわせた報告ができる。 11. ショートカンファレンスで自分の意見を述べるができる。				
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 病棟オリエンテーション 受け持ち患者紹介 情報収集 ケアの見学 状態観察の見学	挨拶 情報収集 行動予定発表 ケアの見学 状態観察見学	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 ケアの一部実施・報告 援助に伴う状態観察・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 ケアの一部実施・報告 援助に伴う状態観察・報告
	午後	情報収集 ケアの見学 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの見学 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	カンファレンス ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの一部実施・報告 援助に伴う状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス・評価など				テーマ： 受け持ち患者の紹介と日常生活援助の必要性	中間評価 (看護過程の展開)
看護過程展開		アセスメント	アセスメント	アセスメント	問題の明確化

【2週目】

今週の目標	1. 看護計画が立案できる。 2. 計画に基づいた実施ができる。 3. 実施した結果を評価できる。 4. 評価に基づいてアセスメント、看護問題、目標、具体策を修正し実施できる。 5. 再評価ができる。 6. 必要に応じて、看護問題につながる情報を収集できる。 7. 中間評価での課題を達成しようと行動できる。				
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告
	午後	ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス・評価など		中間評価 (個人)			テーマ: 受け持ち患者の看護 目標の達成度
看護過程展開		計画立案・実施	実施	実施・評価	実施・評価

【3週目】

今週の目標	1. 実施した結果を評価できる。 2. 評価に基づいてアセスメント、看護問題、目標、具体策を修正し実施できる。 3. 再評価ができる。 4. カンファレンスなどで自分の意見を述べることができる。				
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告	【学内】 カンファレンス (看護過程の振り返り) 記録のまとめ
	午後	ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの実施・報告 援助に伴う状態観察・報告 挨拶	記録のまとめ (16:30提出)
カンファレンス・評価など			最終評価	最終評価 実習の振り返り	
看護過程展開		実施・評価(再評価)	実施・評価(再評価)	実施・評価(再評価)	

# 地域・在宅看護論実習

## 地域・在宅看護論実習（2単位）

**目的** 地域で生活しているさまざまなライフサステージ・あらゆる健康レベルにある人々とその家族が抱えている健康上の課題や問題を理解し、在宅看護の基礎的能力を養う。

**目標**

1. 地域で生活しているさまざまなライフサステージ・あらゆる健康レベルにある対象を生活者として理解する。
2. 対象の生活信条、信念、価値観、生活スタイルを尊重し、状況に応じた対応をとることができる。
3. 在宅療養者とその家族が、在宅療養を継続するための支援方法を学ぶ。
4. 地域の人々の健康の保持増進のための支援方法を学ぶ。
5. 地域における保健医療福祉サービスの連携や多職種との協働の実際を知り、地域における看護の役割を学ぶ。

**実習区分**

実習区分	単位/時間	時期	日数	実習施設
地域・在宅看護論実習	1単位 (45時間)	3年生	6日	公益財団法人磐城済世会 おりづる訪問看護ステーション
	1単位 (45時間)		4日	いわき市地区保健福祉センター 広野町保健センター
			2日	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院外来

## 実習内容

内訳	おりづる訪問看護ステーション	いわき市地区保健福祉センター 広野町保健センター	松村総合病院外来
対象	医療保険で訪問看護サービスを受けている人々 介護保険で訪問看護サービスを受けている人々 生活保護の受給者で訪問看護サービスを受けている人々	さまざまなライフステージにあり、健康障害を未然に防ぐために家庭訪問を必要とする人々  在宅療養者で、家庭訪問を必要とする人々  健康教室・健康相談・健康診査などの来訪者	さまざまなライフステージにあり、心身に異常を自覚して外来受診をする人々  健康障害のため、継続的に外来受診をしている人々
主な疾患	脳梗塞後遺症、 パーキンソン病、 脊髄小脳変性症、 筋萎縮性側索硬化症、 慢性閉塞性肺疾患、 癌再発・転移のターミナルなど		循環器疾患、呼吸器疾患、 消化器疾患、脳神経疾患、 運動器疾患、内分泌疾患など
主な症状	血圧上昇、胸痛、動悸、 不整脈、呼吸困難、喘鳴、 低酸素状態、けいれん、 CO2ナルコーシス、発熱、 脱水、浮腫、意識障害、 言語障害、運動障害、拘縮、 嚥下困難、食欲不振、 嘔気・嘔吐、下痢、便秘、 褥瘡など		血圧上昇、胸痛、動悸、 不整脈、呼吸困難、喘鳴、 発熱、脱水、浮腫、 意識障害、言語障害、 運動障害、嚥下障害、 食欲不振、嘔気・嘔吐、 下痢、便秘、排尿障害、
治療・検査	薬物療法(自己管理の確認) 食事療法(嚥下障害、低栄養 胃瘻管理、在宅中心静脈 栄養法)、 在宅酸素療法 在宅人工呼吸器療法 褥瘡処置、一時的吸引など		血液検査 尿検査 X線検査 CT検査 MRI検査 心電図検査など
主な看護	直接的な看護技術の提供 問題の予測・予防的援助 指導・助言(看護技術、療養生 活上の注意など) 異常事態対応への援助 家族援助(助言・ねぎらい・励 ましなど) 家族の健康管理 ケアマネジメント(社会資源情 報提供、サービス導入、関連 職種との連携業務)	相談指導的援助 調整的援助 ケア・コーディネーション 施設内と地域との連携におけ る継続看護	診察介助 処置や検査の介助 保健指導

## 訪問看護ステーション実習

- 目標
1. 在宅療養者を生活者として理解し、それぞれの療養生活の状況を知ることができる。
  2. 訪問看護の特徴を知り、訪問看護師と共に看護援助の一部を体験できる。
  3. 在宅療養を支える保健医療福祉サービスの連携における看護師の役割について学ぶ。

目標	行動目標	内容
1.在宅療養者を生活者として理解し、それぞれの療養生活の状況を知ることができる。	1)さまざまな在宅療養者の生活状況を知ることができる。	(1)在宅療養者その家族の生活の様子 (2)住居環境 (3)社会資源の活用状況 (4)医療状況 (5)介護状況
	2)訪問目的を把握し、場や状況に応じた対応をとることができる。	(1)今回の訪問目的 (2)マナー (3)コミュニケーション
2.訪問看護の特徴を知り、訪問看護師と共に看護援助の一部を体験できる。	1)提供している看護援助の意味や訪問看護師の役割を考慮することができる。	(1)保険の種類 (2)訪問看護内容 (3)生活の様子と満足度
	2)家族の介護方法や環境を考慮した看護を訪問看護師と共に一部体験することができる。	(1)家族の介護方法を尊重した介護方法 (2)家族の健康管理 (3)在宅療養者や家族の精神的援助 (4)看護・介護用品の工夫 (5)経済性を意識した看護援助
	3)体験した看護援助を振り返ることができる。	(1)安全・安心・安楽・快適に視点をおいた振り返り
3.在宅療養を支える保健医療福祉サービスの連携における看護師の役割について学ぶ。	1)実習を通し、保健医療福祉サービスの連携や活用状況の実際を説明することができる。	(1)さまざまなサービスを受けている在宅療養者とその家族 (2)サービスが生活状況に及ぼす影響 (3)療養生活を支える地域包括ケアシステム (4)緊急・必要時の関連機関の協力・連絡体制
	2)在宅療養を支えるための訪問看護師の役割について記述できる。	(1)訪問看護ステーションの活動状況 (2)施設内看護と在宅看護との継続、連携 (3)訪問看護師が行うケアマネジメント

### <方法>

1. 事前に在宅看護論実習および訪問看護ステーション実習に関するオリエンテーションを受ける。
2. 訪問看護師と共に一部体験し、振り返る。
3. 訪問看護師に同行しさまざまな訪問看護場面を見学する。  
\*可能であれば多職種連携が学べるケースで1件
4. 受け持ち利用者については2回訪問(2日間)
5. 訪問がない時は学内で実習とする。

### <時間>

8:30～17:00

### <提出物>

1. 行動予定表
  2. 受け持ち利用者記録
  3. 自己評価表
  4. 看護技術チェック表、受け持ち患者状況用紙
  5. 目標3についてのレポート(学校指定のレポート用紙)
- \*提出物は担当教員が指示した期日に提出

## 地区保健福祉センター・保健センター実習

目標 1. 地域住民に対する保健活動の実際から地域における看護の役割を学ぶ。

目標	行動目標	内容
1. 地域住民に対する保健活動の実際から地域における看護の役割を学ぶ。	1) 地域住民の健康ニーズを知る。	(1) 地区の特性や統計
	2) 地域住民の健康ニーズに合わせた保健活動を通して、看護の役割を知る。	(1) 地域住民への保健指導 ①健康教育 ②健康相談 ③健康診査 ④介護予防事業 (2) 訪問指導 ①人々の生活の場 ②対象に合った、指導内容・方法 (3) 参加する保健事業の法的根拠・目的 (4) 関係職種・機関との連携

### <方法>

1. 事前に地区保健福祉センターに関するオリエンテーションを受ける。
2. 地域住民の健康状況、地域での保健活動状況について説明を受ける。
3. さまざまな保健活動を体験する。

### <時間>

8:30～17:00

### <提出物>

1. 行動予定表
2. 目標1についてのレポート(学校指定のレポート用紙)

\* 提出物は担当教員が指示した期日に提出

## 外来実習

- 目標
1. 外来を訪れるさまざまなライフステージ・あらゆる健康レベルにある対象を理解できる。
  2. 外来での看護師の役割と継続看護の必要性を理解できる。

目標	行動目標	内容
1. 外来を訪れるさまざまなライフステージ・あらゆる健康レベルにある対象を理解できる。	1) 対象のライフステージや健康レベルに応じた対応がとれる。	(1) 挨拶、自己紹介 (2) 対象のコミュニケーション能力に応じたコミュニケーションの方法
	2) 疾病や障害が生活にどう影響しているか述べられる。	(1) 日々の生活で不便なこと・気をつけていること (2) 服薬状況・管理
	3) 外来受診の様子を述べられる。	(1) 受診の目的 (2) 交通手段・付き添いの人 (3) 受診中の患者の様子
2. 外来での看護師の役割と継続看護の必要性を理解できる。	1) 外来における看護師の活動状況を把握し説明できる。	(1) 看護業務の概要 (2) 療養生活の様子の把握 (3) 継続通院時の保健・生活指導
	2) 実習を通して、継続看護の必要性について説明できる。	(1) 病棟や他部門との連携 (2) 地域との連携

### <方法>

1. 外来実習に関するオリエンテーションを受ける。
2. 実習中1日は、患者に付き添い待合室から診察終了まで行動を共にする。  
もう1日は、外来看護師と行動を共にし、外来での看護師の役割や継続看護を学ぶ。

### <時間>

- 1日目 8:30～12:30  
2日目 8:30～17:00

### <提出物>

1. 行動予定表
- \* 提出物は担当教員が指示した期日に提出

実習計画  
地域・在宅看護論実習

【事前オリエンテーション】

今日の目標	1. 在宅看護論実習の目的・目標が理解できる。 2. 各施設での実習の目標が理解できる。 3. 在宅看護論実習に関する基礎的知識や技術を確認することができる。	
内容	月日	月 日 ( )
	午前	在宅看護論実習オリエンテーション 訪問看護ステーション実習オリエンテーション 地区保健福祉センター実習オリエンテーション 病院外来実習オリエンテーション

【訪問看護ステーション実習(1日目・2日目)】

今日の目標	1. 訪問看護ステーションの1日の流れを知ることができる。 2. 訪問目的を把握し、場や状況に応じた対応をとることができる。 3. さまざまな在宅療養者の生活状況を説明することができる。 4. 疾病や障害が生活に及ぼしている影響について説明することができる。 5. 受け持ち利用者の情報収集をすることができる。	1. 訪問目的を把握し、場や状況に応じた対応をとることができる。 2. さまざまな在宅療養者の生活状況を説明することができる。 3. 疾病や障害が生活に及ぼしている影響について説明することができる。 4. 受け持ち利用者の看護の実際を見学し、看護援助の方法を知ることができる。 5. 看護援助を見学し適した看護計画手順書を作成することができる。
学生の行動	月日	月 日 ( )
	午前	挨拶 申し送り聴取 訪問看護記録の説明を受ける 訪問利用者の情報収集
	午後	訪問看護の見学・一部体験 挨拶 受け持ち利用者訪問 訪問看護の見学・一部体験 看護計画手順書作成 挨拶
看護過程の展開など	訪問利用者の情報収集	看護計画手順書作成

【訪問看護ステーション実習(3日目・4日目)】

今日の目標	1. さまざまな在宅療養者とその家族と積極的にコミュニケーションをはかり在宅療養生活の思いを知ることができる。 2. さまざまな在宅療養者の生活状況を説明することができる。 3. 疾病や障害が生活に及ぼしている影響について説明することができる。 4. 家族の介護方法や環境を考慮した看護を、訪問看護師と共に体験することができる。 5. 体験した看護援助の振り返りを行うことができる。	
学生の行動	月日	月 日 ( )
	午前	挨拶 申し送り聴取 本日の訪問利用者の決定 本日の訪問利用者の情報収集 同行訪問看護師に行動予定表発表 訪問看護の見学・一部体験
	午後	挨拶 受け持ち利用者訪問 訪問看護の見学・一部体験 挨拶
看護過程の展開など	実習指導者に受け持ち利用者の看護計画手順書を確認してもらい、一部体験する 体験した看護援助の振り返りをする 訪問利用者の情報収集	

【訪問看護ステーション実習(5日目・6日目)】

今日の目標	1. さまざまな在宅療養者とその家族と積極的にコミュニケーションをはかり在宅療養生活の思いを知ることができる。 2. さまざまな在宅療養者の生活状況を説明することができる。 3. 疾病や障害が生活に及ぼしている影響について説明することができる。 4. 家族の介護方法や環境を考慮した看護を、訪問看護師と共に体験することができる。 5. 体験した看護援助の振り返りを行うことができる。 6. 実習を通し、保健医療福祉サービスの連携や活用状況の実際を説明することができる。 7. 在宅療養を支えるための訪問看護師の役割について記述できる。	
学生の行動	月日	月 日 ( )
	午前	挨拶 申し送り聴取 本日の訪問利用者の決定 本日の訪問利用者の情報収集 同行訪問看護師に行動予定表発表 訪問看護の見学・一部体験
	午後	振り返りカンファレンス 受け持ち利用者訪問 訪問看護の見学・一部体験 挨拶 学内レポートまとめ 記録物 16:30提出
看護過程の展開など	実習指導者に受け持ち利用者の看護計画手順書を確認してもらい、一部体験する 体験した看護援助の振り返りをする	

【地区保健福祉センター・保健センター実習(1日目・2日目)】

今日の目標	1. 実習する地区保健福祉センター・保健センターの概要について理解できる。 2. 地域住民の健康ニーズを知ることができる。 3. さまざまな保健活動に参加し、地域住民とコミュニケーションをはかることができる。 4. 上記のコミュニケーションから地域住民の健康についての思いを知ることができる。	1. さまざまな保健活動に参加し、地域住民とコミュニケーションをはかることができる。 2. 上記のコミュニケーションから地域住民の健康についての思いを知ることができる。 3. 地域住民の健康ニーズに合わせた保健活動を通して、看護の役割を知ることができる。 4. 地域住民の健康ニーズを支援するための関係職種・機関との連携について知ることができる。
	月日 月 日 ( )	月日 月 日 ( )
学生の行動	午前 挨拶 地区保健福祉センター・保健センターの概要の説明 本日の実習計画の確認 さまざまな保健活動の参加	挨拶 本日の実習計画の確認 さまざまな保健活動の参加
	午後 さまざまな保健活動の参加 ショートカンファレンス 挨拶	さまざまな保健活動の参加 ショートカンファレンス 挨拶
カンファレンス など	家庭訪問予定日に合わせて、保健師よりアドバイスを受け訪問対象のアセスメントおよび訪問計画の立案	

【地区保健福祉センター・保健センター実習(3日目・4日目)】

今日の目標	1. さまざまな保健活動に参加し、地域住民とコミュニケーションをはかることができる。 2. 上記のコミュニケーションから地域住民の健康についての思いを知ることができる。 3. 地域住民の健康ニーズに合わせた保健活動を通して、看護の役割を知ることができる。 4. 地域住民の健康ニーズを支援するための関係職種・機関との連携について知ることができる。	
	月日 月 日 ( )	月日 月 日 ( )
学生の行動	午前 本日の実習計画の確認 さまざまな保健活動の参加	本日の実習計画の確認 さまざまな保健活動の参加
	午後 さまざまな保健活動の参加 ショートカンファレンス 挨拶	さまざまな保健活動の参加 実習全体の反省会 挨拶
カンファレンス など	家庭訪問予定日に合わせて、保健師よりアドバイスを受け訪問対象のアセスメントおよび訪問計画の立案	

【病院外来実習】

今日の目標		1. マナーを守り、外来を訪れる対象者や外来スタッフと対応することができる。 2. 対象のライフステージや健康レベルに応じた対応がとれる。 3. 疾病や障害が生活にどう影響しているか述べられる。 4. 外来受診の様子を述べられる。	2. マナーを守り、外来を訪れる対象者や外来スタッフと対応することができる。 2. 外来における看護師の活動状況を把握し説明できる。 3. 実習を通して、継続看護の必要性について説明できる。
月日		月 日 ( )	月 日 ( )
学生の行動	午前	挨拶 行動予定発表 患者に付き添い受診の流れを見学 ショートカンファレンス	挨拶 行動予定発表 外来看護師の活動の実際を見学 実習全体の反省会
	午後		【学内】 記録のまとめ
カンファレンス など			

# 成人看護学実習

## 成人看護学実習

目的 成人期にある対象の特徴と健康の保持増進の重要性を理解し、あらゆる健康レベルにある対象に応じた適切な看護が実践できる基礎的能力を養う。

- 目標
1. 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな特徴と発達課題の達成状況が理解できる。
  2. 成人期にある対象の健康レベル(急性期、回復期・慢性期、終末期)や、セルフケア能力に応じた看護が展開できる。
  3. 保健・医療・福祉チームにおける看護師の役割を理解できる。
  4. 看護の実践を通して看護観を深めることができる。

### 実習区分

実習区分	単位時間	時期	日数	実習施設
成人看護学実習Ⅰ	2単位 (90時間)	2年生	12日	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院
成人看護学実習Ⅱ	2単位 (90時間)	2年生	12日	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院
成人看護学実習Ⅲ	2単位 (90時間)	3年生	12日	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院

実習内容

	成人Ⅰ（回復・慢性期） 「生活行動に障害をもつ患者の看護」	成人Ⅱ（終末期） 「終末期患者の看護」	成人Ⅲ（急性期） 「状態変化の著しい患者の看護」
対象	疾病の回復に伴い生体の恒常性や安定性の維持が必要であり、本来持つ自然治癒力・闘病意欲を引き出す必要がある。症状が安定している状態が持続しており、家庭・社会復帰する過程において疾病、障害を受容しながら運動・食事・薬物・酸素療法などを受ける。日常生活支援を必要とし、家庭生活や社会生活に必要な指導訓練を受けている。疾病や障害を克服し家庭生活や社会生活を可能にするために、多方面から協力を得て効果的に社会資源を活用し目的を達成しようとする。	近い将来死を迎え、生理的機能が低下していく過程にある患者。考えられる限りの医療技術によっても死を避けることができない患者。身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛が大きい患者。人間のもつニードを自分自身で充足できなくなりつつある。死という予期的悲嘆を体験している。	生体機能の急激な変化・経過がみられる。急激に発症し、短期間で症状の変化が著しい。苦痛が激しく、生命の危険を伴い、生命維持に必要な治療・検査を受けている。安静を強いられ、基本的欲求が充足できない。不安・危機的状態にある。周手術期の患者は手術に備え、身体的・精神的・社会的準備が必要である。手術侵襲からの回復・創傷の治療・社会復帰の準備が必要である。
主な疾患	脳神経疾患・脳血管疾患 呼吸器疾患・循環器疾患 運動器疾患・廃用症候群など	消化器疾患・内分泌疾患 脳神経疾患・脳血管疾患 腫瘍疾患・呼吸器疾患 循環器疾患・運動器疾患 遷延性意識障害など	消化器疾患・内分泌疾患 脳神経疾患・脳血管疾患 腫瘍疾患・呼吸器疾患 循環器疾患・運動器疾患 手術前・後など
主要症状	麻痺、言語障害、運動機能障害、関節可動域制限、知覚異常、嚥下・摂食障害、高次脳機能障害、褥瘡、排泄障害、血圧異常、食欲不振、貧血、睡眠障害など	疼痛、全身倦怠感、嚥下困難、食欲不振、嘔気嘔吐、睡眠障害、腹痛、吐血、下血、乏尿、無尿、出血傾向、黄疸、腹部膨隆、排泄障害、意識障害、動悸、息切れ、黄疸、呼吸困難、浮腫、不安、抑うつ、予期的悲嘆、褥瘡など	意識障害、頭蓋内圧亢進症、呼吸困難、血圧異常、ショック状態、発熱、脱水、麻痺、痙攣、排泄障害、疼痛、出血、腎不全、術後主要症状（嘔気嘔吐・創部痛）、麻酔覚醒状況、術後合併症など
治療・検査	リハビリテーション、食事療法、薬物療法、外固定療法、特殊療法（自己注射・CAPD療法）、体位ドレナージ、胸部・腹部X線、CT、MRI、透視、エコー、MMT徒手筋力テスト、ギプス装着、歩行装具など	緩和療法、化学療法、放射線療法、薬物療法、安静療法、食事療法（高カロリー輸液、経管栄養）、酸素療法、理学療法など	手術療法、輸液療法、輸血療法、安静療法、酸素療法、創傷管理、褥瘡治療、体位ドレナージ、人工呼吸、気管内挿管、一時的・持続的吸引、胸腔・腹腔ドレナージ、リハビリテーション、化学療法、胸部・腹部X線、CT、MRI、透視、造影検査、超音波検査、生検、心電図検査、血液検査など
主な看護	合併症の予防・回復を促す援助 身体的苦痛の緩和 症状コントロール 疾病の自己管理への援助 闘病意欲を引き出す援助 日常生活拡大・自立への援助 社会生活適応への援助 患者・家族の心理の理解と対応・支援 インフォームドコンセント 患者・家族と医療者の関係を良好に保つ援助	身体的苦痛の緩和、緩和ケア 疼痛コントロール 呼吸困難時の援助 消化器症状のコントロール 人間の尊厳、死生観 基本的ニードの充足 臨終の看護、死後の処置 予期的悲嘆への援助 QOLの支援、家族への支援 インフォームドコンセント 患者・家族と医療者の関係を良好に保つ援助	状態変化への対応 生命の維持と回復への援助 生理的機能の恒常性維持の援助 病状の悪化と合併症予防 心身の苦痛、不快の緩和 危機に対する情緒的安定・ニードの充足への援助 周手術期の看護、 手術に伴う症状緩和の看護 インフォームドコンセント 患者・家族と医療者の関係を良好に保つ援助

成人看護学実習 I

- 目 標
- 1.回復期・慢性期にあり、生活行動に障害を持つ成人期にある対象の特徴と、発達課題の達成状況が理解できる。
  - 2.疾患や機能障害により日常生活行動に障害を持つ対象のセルフケア能力に応じたQOL維持・向上のための援助ができる。
  - 3.回復期・慢性期にある対象の精神的支援を学ぶことができる。
  - 4.保健医療福祉チームにおける看護師の役割を学ぶことができる。

目 標	行動目標	内 容
1.回復期・慢性期にあり、生活行動に障害を持つ成人期にある対象の特徴と、発達課題の達成状況が理解できる。	1) 疾患や障害を抱えながら生活する成人期にある対象の特徴と、発達課題の達成状況が説明できる。	(1)成人期にある対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな特徴 (2)発達課題の達成状況 (3)疾患の原因・誘因・症状・治療・看護 (4)疾患や機能障害が日常生活に及ぼす影響
2.疾患や機能障害により日常生活行動に障害を持つ対象のセルフケア能力に応じたQOL維持・向上のための援助ができる。	1) 対象の機能訓練や残存機能を活用し、日常生活拡大への援助ができる。	(1)残存機能の把握、機能訓練の目的・内容 (2)訓練への意欲や意向 (3)日常生活拡大への援助
	2) 対象のセルフケア能力をアセスメントし、疾病の自己管理や生活調整に向けた援助ができる。	(1)疾患の経過から予測される悪化・合併症 (2)対象の疾患への理解度、セルフケア能力の評価 (3)意思決定支援 (4)セルフケア能力が促進するような健康管理指導
3.回復期・慢性期にある対象の精神的支援を学ぶことができる。	1) 回復期・慢性期にある対象や家族の受容過程に応じた支援を、看護師の対応場面から学ぶことができる。	(1)対象の疾患や機能障害の程度と受容過程 (2)対象の受容過程に応じた支援 (3)家族の受容過程に応じた支援
4.保健医療福祉チームにおける看護師の役割を学ぶことができる。	1) 退院後の療養生活を見据え、多職種との連携・協働の必要性和看護師の役割を説明できる。	(1)対象を取り巻く職種と連携・協働の必要性 (2)退院時の状態と退院後の生活 (3)対象に必要な社会資源 (4)看護師の役割

<方法>

- 1.初日に成人看護学 I のオリエンテーションを受ける。
- 2.初日に、病棟オリエンテーションを受ける。
- 3.受け持ち患者制とし、1例受け持つ。
- 4.回復期・慢性期の患者の特徴を理解し、看護を実践する。

<時間>

8:00～16:30

<提出物>

- 1.行動予定表
- 2.受け持ち患者記録
- 3.看護技術チェックリスト
- 4.自己評価表
- 5.受け持ち患者状況用紙

\* 提出物は実習終了日、16:30までに担当教員へ提出

実習計画  
成人看護学実習 I

【1週目】

今週の目標	1. 成人看護学実習 I の目的・目標が理解できる。 2. 成人看護学実習 I に関する、基礎知識や技術を確認できる。 3. 自ら実習の目的を明らかにした行動予定が書ける。 4. 病棟の特殊性や受け持ち患者の生活の場を理解できる。 5. 「今日の目標」の達成状況を明らかにし、評価・修正して翌日の行動予定に繋げることができる。 6. 疾病や機能障害が日常生活に及ぼしている影響にポイントを置いてアセスメントできる。 7. 日常生活の拡大に向けての看護問題が明らかにできる。(全体をとらえる) 8. 対象に必要な機能訓練の意義・目的が説明できる。 9. 対象や家族、医療従事者とのコミュニケーションが図れる。 10. カンファレンスに参加し、自己の考えを述べるができる。				
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 成人看護学実習 I オリエンテーション 病棟オリエンテーション 受け持ち患者紹介 情報収集	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察見学 ケアの見学	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの見学・一部実施 ・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの見学・一部実施 ・報告
午後	情報収集 状態観察見学 ケアの見学 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	情報収集 状態観察・報告 ケアの見学 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの見学・一部実施 ・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの見学・一部実施 ・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	
カンファレンス・評価など					中間評価
看護過程展開		アセスメント	アセスメント	アセスメント	問題の明確化

【2週目】

今週の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護計画に基づき「今日の目標」・「行動予定」が立案できる。</li> <li>2. 行動予定表の「今日の目標」と「実施」と照らしあわせながら評価できる。</li> <li>3. セルフケア能力に応じて、機能訓練を日常生活に取り入れることができる。</li> <li>4. 日常生活拡大に向けて看護計画を立案し、実施できる。</li> <li>5. 援助の結果を踏まえた評価・修正ができる。</li> <li>6. 対象や家族の疾患や障害に対する思いが表出できるような環境を作ることができる。</li> <li>7. 対象や家族の疾患や障害に対する思いを表現させ、その意味考えることができる。</li> <li>8. 中間評価での自己の課題に取り組むことができる。</li> </ol>				
学生の行動	月日	月日( )	月日( )	月日( )	月日( )
	午前	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告
	午後	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス・ 評価など					
看護過程展開		計画	計画・実施	実施・評価	実施・評価

【3週目】

今週の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の機能障害やセルフケア能力に応じて、安全・安楽に配慮し援助できる。</li> <li>2. セルフケア能力に応じて、機能訓練を日常生活に取り入れることができる。</li> <li>3. 対象の残存機能の維持・向上を目指した援助ができる。</li> <li>4. 援助の結果を踏まえ評価・修正しながら、日常生活拡大に向けた援助ができる。</li> <li>5. 対象を取り巻く職種と、連携・協働の必要性と看護師の役割が理解できる。</li> <li>6. 対象の退院後の生活をイメージし、必要な社会資源を考えることができる。</li> <li>7. 対象の自己管理や生活の調整に必要な健康管理指導ができる。</li> <li>8. 中間評価での自己の課題を評価することができる。</li> </ol>				
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	【学内】 記録のまとめ
	午後	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 3週間の振り返り 挨拶	
カンファレンス・ 評価など			最終評価		
看護過程展開		実施・評価	実施・評価	実施・評価	

## 成人看護学実習Ⅱ

- 目標
1. 終末期にあり、生理的機能が徐々に低下していく成人期にある対象を統合的に理解できる。
  2. 対象の状態に応じた基本的ニーズを充足し、その人らしい生活の向上に重点をおいた援助ができる。
  3. 対象の苦痛を緩和するための援助ができる。
  4. 予期的悲嘆に対する援助を学ぶことができる。
  5. 終末期にある対象の看護を通し死生観を深めることができる。

目 標	行動目標	内 容
1. 終末期にあり、生理的機能が徐々に低下していく成人期にある対象を統合的に理解できる。	1) 病状の進行に伴う生理的機能が低下していく成人期にある対象を統合的に理解し、その人らしさが説明できる。	(1) 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴 (2) スピリチュアルな特徴(真の希望(生きがい)の把握、価値観、人生観、信仰の尊重) (2) 発達課題の達成状況 (3) 病状の進行に伴う生理的機能 (4) 治療及び看護 (5) QOL
2. 対象の状態に応じた基本的ニーズを充足し、その人らしい生活の向上に重点をおいた援助ができる。	1) 対象の状態から基本的ニーズの充足状態が説明できる。	(1) その人らしさを踏まえたニーズの充足
	2) その人らしさを踏まえたニーズの充足のための援助ができる。	(1) 基本的ニーズの充足に対する対象の希望 (2) 意思決定支援 (3) 安全・安楽およびセルフケア能力に配慮した援助
3. 対象の苦痛を緩和するための援助ができる。	1) 対象の全人的苦痛を理解し、苦痛緩和のための援助ができる。	(1) 全人的苦痛のアセスメント (2) 苦痛緩和の方法 (3) 傍らに付き添う意味
4. 予期的悲嘆に対する援助を学ぶことができる。	1) 対象や家族の心情の変化に対する援助を、看護師の対応場面から学ぶことができる。	(1) 死の受容プロセスの理解と心理状態に合わせた援助 (2) 家族の思い・希望 (3) 家族の希望を考慮した援助・面会・付添への配慮、家族の看護参加 (4) 残された時間の使い方
5. 終末期にある対象の看護を通し死生観を深めることができる。	1) 他者の死生観や終末期にある対象との関わりから、自己の死生観を述べることができる。	(1) 生き方、死に方についての考え (2) 生命の尊厳、人間の尊厳、死の看取りのあり方 (3) 成人期にある対象の死のとらえ方 (4) 他者の死生観

### <方法>

1. 初日に成人看護学実習Ⅱのオリエンテーションを受ける。
2. 初日に、病棟オリエンテーションを受ける。
3. 受け持ち患者制とし、1例受け持つ。
4. 終末期の患者の特徴を理解し、看護を実践する。
5. 必要時カンファレンスをする。

### <時間>

8:00～16:30

### <提出物>

1. 行動予定表
2. 受け持ち患者記録
3. 看護技術チェックリスト
4. 自己評価表
5. 受け持ち患者状況用紙

\* 提出物は実習終了日、16:30までに担当教員へ提出

実習計画  
成人看護学実習Ⅱ

【1週目】

今週の目標	1. 成人看護学実習Ⅱの目的・目標が理解できる。 2. 成人看護学実習Ⅱに関する基礎的知識や技術を確認することができる。 3. 自ら実習の目標を明らかにした行動予定を書くことができる。 4. 病棟の特殊性や受け持ち患者の生活の場を理解できる。 5. 終末期の特徴が述べられる。 6. 対象の全体像を理解し述べられる。 7. 対象の全人的苦痛を理解し、看護上の問題点を明確にできる。 8. 対象の苦痛の緩和、ニードの充足に向けた計画の立案ができる。 9. 対象および家族を尊重した態度で接することができる。 10. カンファレンスに参加し、自己の考えを述べるができる。				
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 成人看護学実習Ⅱ オリエンテーション 病棟オリエンテーション 受け持ち患者紹介 情報収集	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察見学 ケアの見学	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの見学・一部実施 ・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの見学・一部実施 ・報告
午後	情報収集 状態観察見学 ケアの見学 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	情報収集 状態観察・報告 ケアの見学 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	情報収集 状態観察・報告 ケアの見学・一部実施 ・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの見学・一部実施 ・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	
カンファレンス・ 評価など					中間評価
看護過程展開		アセスメント	アセスメント	アセスメント	問題の明確化

【2週目】

今週の目標	1. 対象の苦痛の緩和、ニーズの充足に向けた援助ができる。 2. QOLの意義を知り、対象の意思を尊重した計画と実施ができる。 3. 対象および家族の心理過程を知り、支援方法が理解できる。 4. 対象および家族を尊重した態度で接することができる。 5. その人なりの死生観があることを知ることができる。 6. 他者の死生観や対象との関わりから、自己の死生観を深めることができる。 7. 中間評価での自己の課題に取り組むことができる。				
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告
	午後	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス・評価など			カンファレンス		
看護過程展開		計画	計画・実施	実施・評価	実施・評価

【3週目】

今週の目標	1. 対象の状態に応じ、安全・安楽を配慮した援助ができる。 2. 援助の実施を踏まえ評価・修正しながら、QOL、意思を尊重した援助ができる。 3. 対象および家族を尊重した態度で接することができる。 4. 中間評価での自己の課題を評価することができる。 5. 看護に対する考えを深め、今後の課題を明らかにすることができる。				
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	【学内】 記録のまとめ
	午後	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 3週間の振り返り 挨拶	【学内】 記録のまとめ
カンファレンス・評価など				最終評価	
看護過程展開		実施・評価	実施・評価	実施・評価	

### 成人看護学実習Ⅲ

- 目標
- 1.急性期にあり、著しくかつ刻々と変化する成人期にある対象の今の状態を説明できる。
  - 2.急性期にある対象の健康障害の経緯、程度、要因、疾患を理解し、安全管理と根拠に基づき、セルフケア能力の低下を考慮した個別的な看護が実践できる。
  - 3.急性期にある対象および家族の精神的苦痛への援助を学ぶことができる。
  - 4.保健医療福祉チームにおける看護師の役割を学ぶことができる。

目標	行動目標	内容
1.急性期にあり、著しくかつ刻々と変化する成人期にある対象の今の状態を説明できる。	1)成人期にある対象を全人的に捉え、著しくかつ刻々と変化する対象の今の状態を説明できる。	(1)成人期にある対象の全人的視点(身体的・精神的・社会的・スピリチュアル)・発達課題の達成状況
2.急性期にある対象の健康障害の経緯、程度、要因、疾患を理解し、安全管理と根拠に基づき、セルフケア能力の低下を考慮した個別的な看護が実践できる。	1)対象の疾患・治療内容および予測される急変や合併症を理解し、根拠に基づいた看護が看護師と共に実践できる。	(1)疾患の原因・誘因・症状・検査・治療・予測される急変や合併症、看護 (2)状態の観察 (3)根拠に基づいた看護実践
	2)対象の危険を予測し、安全対策を学ぶことができる。	(1)誤薬防止、医療機器の管理 (2)感染予防対策 (3)ドレーン・チューブの管理 (4)転倒転落防止
	3)対象の苦痛や身体的制限によるセルフケア能力を理解し、苦痛の緩和、必要な援助を通して、対象が主体的に早期回復へ取り組めるよう援助できる。	(1)制限と苦痛 (2)セルフケア能力の回復に向けたADLを見極め、安全・安楽に配慮した援助 (3)環境の調整 (4)苦痛の緩和への援助 (5)早期回復への援助
3.急性期にある対象および家族の精神的苦痛への援助を学ぶことができる。	1)対象や家族の精神状態に応じた支援を、看護師の対応場面から学ぶことができる。	(1)急性期にある対象および家族の思い(フィンクの危機モデル) (2)対象や家族の気持ちが表出できるような環境づくり (3)対象および家族の心理状態に応じた支援
4.保健医療福祉チームにおける看護師の役割を学ぶことができる。	1)他部門との連携や調整の必要性を説明できる。	(1)入院や治療に関わる職種と連携・協働の必要性 (2)看護師の活動

#### <方法>

- 1.初日に成人看護学Ⅲのオリエンテーションを受ける。
- 2.初日に、病棟オリエンテーションを受ける。
- 3.受け持ち患者制とし、1例受け持つ。
- 4.急性期の患者の特徴を理解し、看護を実践する。

#### <時間>

8:00～16:30

#### <提出物>

- 1.行動予定表
- 2.受け持ち患者記録
- 3.看護技術チェックリスト
- 4.自己評価表
- 5.受け持ち患者状況用紙

\*提出物は実習終了日、16:30までに担当教員へ提出

実習計画  
成人看護学実Ⅲ

【1週目】

今週の目標		1. 成人看護学実習Ⅲの目的・目標が理解できる。 2. 成人看護学実習Ⅲに関する、基礎知識や技術を確認できる。 3. 自ら実習の目的を明らかにした行動予定が書ける。 4. 病棟の特殊性や受け持ち患者の生活の場を理解できる。 5. 「今日の目標」の達成状況を評価・修正し、翌日の行動予定に繋げることができる。 6. 各状態に伴う症状発生メカニズムや、起こりえる合併症について理解できる。 7. 対象に必要な状態観察を理解し、看護師と共に状態変化の観察をすることができる。 8. 観察の結果、正常・異常の判断ができる。 9. 緊急時の対応や急変時に用いる機器・器具の使用・管理について学ぶことができる。 10. カンファレンスに積極的に参加できる。			
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 成人看護実習Ⅲ オリエンテーション 病棟オリエンテーション 事前学習 患者紹介 情報収集	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 診察介助(回診見学) 状態観察の見学 ケアの見学	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 診察介助(回診見学) 状態観察の実施・報告 ケアの見学	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 診察介助(回診見学) 状態観察の実施・報告 ケアの見学・実施
	午後	情報収集 状態観察の見学 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察の実施・報告 ケアの見学・実施 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察の実施・報告 ケアの見学・実施 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察の実施・報告 ケアの見学・実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス・評価など					
看護過程展開		アセスメント	アセスメント	アセスメント	アセスメント

【2週目】

今週の目標	1. 対象の状態観察に必要な項目を理解し、看護師と共に状態変化の観察をすることができる。 2. 観察の結果、正常・異常の判断ができる。 3. 合併症の早期発見のための観察や予防のための援助ができる。 4. 対象の苦痛や制限による能力を理解し、安全・安楽なセルフケア援助することができる。 5. さまざまな精神状態にある患者や家族の思いが表出できる環境を作ることができる。 6. さまざまな精神状態にある患者や家族の思いに応じた支援が理解できる。 7. 治療に関わる職種と、関わりの必要性が理解できる。 8. 援助の結果を踏まえた評価・修正ができる。 9. 中間評価での自己の課題に取り組むことができる。				
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 診察介助(回診見学) 状態観察の実施・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 診察介助(回診見学) 状態観察の実施・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 診察介助(回診見学) 状態観察の実施・報告 ケアの実施・報告	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 診察介助(回診見学) 状態観察の実施・報告 ケアの実施・報告
	午後	状態観察の実施・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察の実施・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察の実施・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察の実施・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス・評価など		中間評価			
看護過程展開		問題の明確化・計画	計画	計画・実施	実施・評価

【3週目】

今週の目標	1. 看護師と共に状態変化の観察を行い、正常・異常の判断ができる。 2. 合併症の早期発見のための観察や予防のための援助ができる。 3. 対象の苦痛や制限による能力を理解し、安全・安楽なセルフケア援助することができる。 4. 意欲的・主体的に回復行動がとれるよう目的の説明と支援ができる。 5. さまざまな精神状態にある患者や家族の思いに応じた支援が理解できる。 6. 援助の結果を踏まえて評価・修正しながら、基本的ニーズの充足への援助ができる。 7. 緊急時の対応や初歩的な緊急処置を学ぶことができる。 8. 中間評価での自己の課題を評価することができる。				
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 診察介助 状態観察の実施・報告 ケアの実施・報告	【学内実習】 急性期患者の看護 ・看護の実践	挨拶 情報収集 行動予定発表 環境整備 診察介助 状態観察の実施・報告 ケアの実施・報告	【学内】 記録のまとめ
	午後	【学内実習】 急性期患者の看護 ・病態の生理 ・計画・立案	【学内実習】 ・シミュレーション後の 振り返り	状態観察・報告 ケアの実施・報告 3週間の振り返り 挨拶	【学内】 実習の振り返り
カンファレンス・評価など				最終評価	
看護過程展開		実施・評価	実施・評価	実施・評価	

# 老年看護学実習

## 老年看護学実習（4単位）

目的 老年期にある対象の特徴と健康増進の重要性を理解し、あらゆる健康レベルに応じた適切な看護が実践できる基礎的能力を養う。

### 目標

1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな特徴と発達課題の達成状況が理解できる。
2. 老年期にある対象の生活の信条、信念、価値観を尊重した行動がとれる。
3. 対象を取り巻く生活環境の中で、日常生活動作の障害が及ぼす影響を理解できる。
4. 健康が障害された対象の問題を理解し、対象に応じた看護が展開できる。
5. 保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を理解できる。
6. 老年看護の実践を通して老年観を深めることができる。

### 実習区分

実習区分	単位/時間	時期	日数	実習施設
老年看護学実習Ⅰ	2単位 (90時間)	2年生	2日	いわき市老人クラブ連合会
			5日	公益財団法人磐城済世会 長春館病院
			4日	社会福祉法人 以和貴会 デイサービスセンター 聖徳荘
			1日	社会福祉法人 以和貴会 特別養護老人ホーム 聖徳荘
老年看護学実習Ⅱ	2単位 (90時間)	3年生	12日	公益財団法人磐城済世会 長春館病院

## 実習内容

内訳	老年看護学 I			
	いわき市 老人クラブ連合会	社会福祉法人 以和貴会 デイサービスセンター 聖徳荘	社会福祉法人 以和貴会 特別養護老人ホーム 聖徳荘	公益財団法人磐城済世会 長春館病院
対象	前期高齢者:65～74歳 後期高齢者:75～84歳 超高齢者:85歳～  いわき市スポーツ大会 に参加する高齢者	前期高齢者:65～74歳 後期高齢者:75～84歳 超高齢者:85歳～  在宅生活を送っている 高齢者で主治医の指導 に基づいて、心身の機 能維持・回復、日常生 活の自立援助が必要な 要介護者	前期高齢者:65～74歳 後期高齢者:75～84歳 超高齢者:85歳～  病状安定期にあり、入院 治療をする必要はない が、リハビリテーションや 看護・介護を必要とする 要介護者	前期高齢者:65～74歳 後期高齢者:75～84歳 超高齢者:85歳～  病状が安定している長 期療養患者であって、カ テーテルを装着している 等の常時医学的管理が 必要な要介護者
主な疾患				脳梗塞後遺症、認知症 慢性心不全、骨折、 骨粗鬆症、廃用症候群 パーキンソン症候群、 尿路感染症、白内障、 難聴など
主な症状				脱水、呼吸困難、喘鳴、 浮腫、褥瘡、不整脈、 血圧異常、動悸、便秘、 食欲不振、排尿障害、 摂食障害、知覚異常、 運動機能障害、眩暈、 意識障害、腎不全、 貧血、掻痒感、低栄養、 視聴覚障害、難聴、 認知症など
治療・検査				薬物療法、安静療法、 食事療法(経管栄養法・ 高カロリー輸液法)、 酸素療法、 理学療法、作業療法、
主な看護	事業内容に合わせた活 動支援	事業内容に合わせた活 動支援	事業内容に合わせた活 動支援	廃用症候群の予防 対象の闘病意欲を引き 出す援助  日常生活援助 自立を促す援助 QOLを高める援助

## 実習内容

内訳	老年看護学Ⅱ
対象	前期高齢者:65～74歳 後期高齢者:75～84歳 超高齢者:85歳～ 病状が安定している長期療養患者であって、カテーテルを装着している等の常時医学的管理が必要な要介護者。 病状が安定している長期療養患者のうち、密度の高い医学的管理や積極的なリハビリテーションを必要とする者。
主な疾患	脳梗塞後遺症、認知症、慢性心不全、骨折、骨粗鬆症、パーキンソン症候群、廃用症候群、尿路感染症、白内障、難聴など
主な症状	脱水、呼吸困難、喘鳴、浮腫、褥瘡、不整脈、血圧異常、眩暈、動悸、食欲不振、便秘、排尿障害、摂食・嚥下障害、運動機能障害、意識障害、知覚異常、睡眠障害、腎不全、貧血、掻痒感、低栄養、視聴覚障害、難聴、認知症など
治療・検査	薬物療法、安静療法、食事療法(高カロリー輸液、経管栄養法)、酸素療法、理学療法、作業療法
主な看護	身体苦痛の緩和、廃用症候群の予防、対象の闘病意欲を引き出す援助、日常生活援助、自立を促す援助、QOLを高める援助

## 老年看護学実習 I (いわき市スポーツ大会)

- 目標
1. 高齢者の人格を尊重した対応ができる。
  2. 事業に参加している高齢者の特徴を理解できる。

目標	行動目標	内容
1. 高齢者の人格を尊重した対応ができる。	1) 高齢者の人格を尊重した態度で接することができる。	(1) 高齢者やその家族への接し方 (挨拶、言葉遣い、態度など) (2) 傾聴、受容、共感の理解
2. 事業に参加している高齢者の特徴を理解できる。	1) 高齢者の特徴を考慮した事業内容を述べることができる。	(1) 事業の目的や内容や工夫 (2) 参加人数・参加頻度
	2) 事業参加中の高齢者の様子を述べることができる。	(1) 高齢者の身体的特徴 (動作、運動の柔軟性、姿勢、可動性など) (2) 対象の視力・聴力・言語・知能などのコミュニケーション機能 (3) 参加の動機や参加しての感想 (4) 事業参加による日常生活への影響 (5) 担当者や参加者同士との関わり

### <方法>

1. 事前に老年看護学実習 I についてオリエンテーションを受ける。
2. 競技の準備や片付け、競技中の高齢者の補助的役割を行う。
3. 競技の見学時や参加時に、対象とコミュニケーションを図る。

### <時間>

8:00～16:30

### <提出物>

1. レポート
2. 自己評価表

\* 提出物は担当教員が指示した期日に提出

## 老年看護学実習 I (デイサービス)

- 目標
1. 人格を尊重した対応ができる。
  2. デイサービスに訪れる高齢者の特徴を理解できる。
  3. デイサービスでの看護師の役割と継続看護の必要性を理解できる。

目標	行動目標	内容
1. 人格を尊重した対応ができる。	1) 対象の人格を尊重した態度で接することができる。	(1) 対象やその家族への接し方 (挨拶、言葉遣い、態度など) (2) 傾聴、受容、共感の理解
	2) 対象の視力・聴力・言語・知能などコミュニケーション機能について把握し説明できる。	(1) 加齢とコミュニケーション能力 (2) 高齢者とのコミュニケーションの方法 (3) 知的機能の変化(結晶性知能・流動性知能)
2. デイサービスに訪れる高齢者の特徴を理解できる。	1) デイサービスを利用している高齢者の状況を述べることができる。	(1) デイサービス利用の目的や経緯 (2) デイサービスでの様子や利用しての感想 (3) 自宅での様子
3. デイサービスでの看護師の役割と継続看護の必要性を理解できる。	1) デイサービスでの様々な職種の活動の見学から、看護師の役割を考えることができる。	(1) デイサービスでの看護師の役割 (2) 他職種との連携・協働

### <方法>

1. 初日に老年看護学実習 I オリエンテーションを受ける。
2. 初日に実習施設および実習内容についてオリエンテーションを受ける。
3. 朝の送迎サービスから同行し、スタッフの活動に参加しながら実習をすすめる。

### <時間>

8:00～16:30

### <提出物>

1. 行動予定表
2. レポート
3. 自己評価表

\* 提出物は担当教員が指示した期日に提出

## 老年看護学実習 I (介護老人福祉施設)

- 目標
1. 入所者の人格を尊重した対応ができる。
  2. 入所者を取り巻く生活環境の中で、日常生活動作の障害が及ぼす影響を理解できる。
  3. 介護老人福祉施設での看護師の役割と継続看護の必要性を理解できる。

目標	行動目標	内容
1.入所者の人格を尊重した対応ができる。	1) 対象や家族の人格を尊重した態度で接することができる。	(1) 対象やその家族への接し方 (挨拶、言葉遣い、態度など) (2) 傾聴、受容、共感の理解
	2) 入所者の視力・聴力・言語・知能などコミュニケーション機能について把握し説明できる。	(1) 加齢とコミュニケーション能力 (2) 対象とのコミュニケーションの方法 (3) 知的機能の変化(結晶性知能・流動性知能)
2.入所者を取り巻く生活環境の中で、日常生活動作の障害が及ぼす影響を理解できる。	1) 日常生活動作に合わせた援助の見学から、入所者の必要としている援助を理解することができる。	(1) 日常生活動作(ADL)の評価と援助 (移動、食事、排泄、更衣、入浴など)
3. 介護老人福祉施設での看護師の役割と継続看護の必要性を理解できる。	1) 介護老人福祉施設での様々な職種の活動の見学から、看護師の役割を考えることができる。	(1) 介護老人福祉施設の特徴 (2) 介護老人福祉施設での看護師の役割 (3) 他職種・他機関・施設との連携と協働

### <方法>

1. 初日に老年看護学実習 I 実習のオリエンテーションを受ける。
2. 初日に実習施設および実習内容についてオリエンテーションを受ける。
3. 実習中はスタッフと行動を共にし、複数の入所者に関わる。

### <時間>

8:00~16:30

### <提出物>

1. 行動予定表
2. レポート
3. 自己評価表

\* 提出物は担当教員が指示した期日に提出

## 老年看護学実習 I (長春館病院)

- 目標
1. 対象の人格を尊重した対応ができる。
  2. 対象を取り巻く生活環境の中で、日常生活動作の障害が及ぼす影響を理解できる。
  3. 慢性療養型病院の中での看護師の役割と継続看護の必要性を理解できる。

目標	行動目標	内容
1. 対象の人格を尊重した対応ができる。	1) 対象の人格を尊重した態度で接することができる。	(1) 対象やその家族への接し方 (挨拶、言葉遣い、態度など) (2) 傾聴、受容、共感の理解
	2) 対象の視力・聴力・言語・知能などコミュニケーション機能について把握し説明できる。	(1) 加齢とコミュニケーション能力 (2) 対象とのコミュニケーションの方法 (3) 知的機能の変化(結晶性知能・流動性知能)
2. 対象を取り巻く生活環境の中で、日常生活動作の障害が及ぼす影響を理解できる。	1) 対象の必要としている援助を日常生活動作の状況に応じ、一部体験できる。	(1) 日常生活動作(ADL)の評価と看護 (移動、食事、排泄、更衣、入浴)
3. 慢性療養型病院の中での看護師の役割と継続看護の必要性を理解できる。	1) 慢性療養型病院における看護師の活動状況や継続看護の必要性を述べることができる。	(1) 慢性療養型病院の特徴 (2) 治療時の看護・日常生活への援助・介護支援 (3) 他機関・施設との連携と協働 (4) 多職種との連携・協働

### <方法>

1. 初日に老年看護学実習 I のオリエンテーションを受ける。
2. 初日に病棟オリエンテーションを受ける。
3. 実習中は看護師・スタッフと行動を共にし、看護業務に従い複数の患者に関わる。

### <時間>

8:00～16:30

### <提出物>

1. 行動予定表
2. レポート
3. 自己評価表
4. 看護技術チェック表

\* 提出物は担当教員が指示した期日に提出

実習計画  
 老年看護学実習 I

【事前オリエンテーション】

目標	1. 老年看護学実習 I の目的・目標が理解できる。 2. 老年看護学実習 I に関する、基礎的知識や技術を確認できる。	
内容	月日	月 日 ( )
	午後	老年看護学実習 I オリエンテーション いわき市スポーツ大会実習オリエンテーション 聖徳荘: デイサービス実習オリエンテーション 聖徳荘: 介護老人福祉施設実習オリエンテーション 長春館病院実習オリエンテーション 事前学習

【いわき市スポーツ大会実習】

今日の目標	1. 高齢者の人格を尊重した態度で接することができる。 2. 高齢者の特徴を考慮した事業内容を述べることができる。 3. 事業参加中の高齢者の様子を述べることができる。	
学生の行動	月日	月 日 ( )
	午前	オリエンテーション ミーティング(各係確認) 開会式参加 競技の準備・誘導・片付け
	午後	競技の準備・誘導・片付け 閉会式参加 会場の片付け

実習計画  
 老年看護学実習 I  
 デイサービス実習

月日	月 日( )	月 日( )	月 日( )	月 日( )
今日	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.自らの実習目標を明らかにした行動予定を書くことができる。</li> <li>2.対象の人格を尊重した態度で接することができる。</li> <li>3.対象の視力・聴力・言語・知識などコミュニケーション機能について把握し説明できる。</li> <li>4.デイサービスを利用している高齢者の状況を述べることができる。</li> <li>5.デイサービスでの様々な職種の活動の見学から、看護師の役割を考えることができる。</li> </ol>			
学生	<p>挨拶 朝の送迎に同行 利用者の一般状態の観察見学・一部介助 (体温再検、血圧測定) 入浴の誘導・一部介助 (ドライヤー・湿布貼付) トイレ誘導・一部介助</p> <p>昼食、おやつ準備 ・一部介助(配膳・下膳) 機能訓練の見学 コミュニケーション レクリエーション(14:20～ 14:45)の誘導一部介助</p> <p>記録物(連絡帳)の確認 介護相談、介護指導 場面の見学</p> <p>ショートカンファレンス (学生のみ) 記録</p> <p>挨拶</p>	<p>挨拶 朝の送迎に同行 利用者の一般状態の観察見学・一部介助 (体温再検、血圧測定) 入浴の誘導・一部介助 (ドライヤー・湿布貼付) トイレ誘導・一部介助</p> <p>昼食、おやつ準備 ・一部介助(配膳・下膳) 機能訓練の見学 コミュニケーション レクリエーション(14:20～ 14:45)の誘導一部介助</p> <p>記録物(連絡帳)の確認 介護相談、介護指導 場面の見学</p> <p>ショートカンファレンス (学生のみ) 記録</p> <p>挨拶</p>	<p>挨拶 朝の送迎に同行 利用者の一般状態の観察見学・一部介助 (体温再検、血圧測定) 入浴の誘導・一部介助 (ドライヤー・湿布貼付) トイレ誘導・一部介助</p> <p>昼食、おやつ準備 ・一部介助(配膳・下膳) 機能訓練の見学 コミュニケーション レクリエーション(14:20～ 14:45)の企画・運営</p> <p>記録物(連絡帳)の確認 介護相談、介護指導 場面の見学</p> <p>ショートカンファレンス (学生のみ) 記録</p> <p>挨拶</p>	<p>挨拶 朝の送迎に同行 利用者の一般状態の観察見学・一部介助 (体温再検、血圧測定) 入浴の誘導・一部介助 (ドライヤー・湿布貼付) トイレ誘導・一部介助</p> <p>昼食、おやつ準備 ・一部介助(配膳・下膳) 機能訓練の見学 コミュニケーション レクリエーション(14:20～ 14:45)の誘導一部介助</p> <p>記録物(連絡帳)の確認 介護相談、介護指導 場面の見学</p> <p>ショートカンファレンス (学生のみ) 記録</p> <p>挨拶</p>

実習計画  
 老年看護学実習 I

介護老人福祉施設実習

月日		月 日( )
今日の目標		1.自らの実習目標を明らかにした行動予定を書くことができる。 2.目標1)、2)を踏まえ、入所者や家族の人格を尊重した態度で接することができる。 3.日常生活動作に合わせた援助の見学から、入所者の必要としている援助を理解することができる。 4.介護老人福祉施設での様々な職種の活動の見学から、看護師の役割を考えることができる。
学生の行動	午前	挨拶 行動予定発表 ケアの見学・一部介助 コミュニケーション
	午後	ケアの見学・一部介助 コミュニケーション  ショートカンファレンス(学生のみ) 挨拶
カンファレンス など		

老年看護学実習 I

長春館病院実習

今日の目標		1. 自らの実習目標を明らかにした行動予定を書くことができる。 2. 対象の人格を尊重した態度で接することができる。 3. 対象の視力・聴力・言語・知識などコミュニケーション機能について把握し説明できる。 4. 対象の日常生活動作の状況に応じて必要としている援助を一部体験できる。 5. 慢性療養型病院における看護師の活動状況や継続看護の必要性を述べるができる。		
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 患者挨拶 情報収集 ケアの見学・一部介助	挨拶 申し送り聴取 患者挨拶 行動予定発表 情報収集 ケアの見学・一部介助	挨拶 申し送り聴取 患者挨拶 行動予定発表 情報収集 ケアの見学・一部介助
	午後	ケアの見学・一部介助 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 患者挨拶 挨拶	ケアの見学・一部介助 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 患者挨拶 挨拶	ケアの見学・一部介助 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 患者挨拶 挨拶
カンファレンス など			カンファレンス	

今日の目標		1. 対象の視力・聴力・言語・知識などコミュニケーション機能について 把握し説明できる。 2. 対象の日常生活動作の状況に応じて必要としている援助を一部体験できる。 3. 慢性療養型病院における看護師の活動状況や継続看護の必要性を述べることができる。	
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 申し送り聴取 患者挨拶 行動予定発表 情報収集 ケアの見学・一部介助	【学内】 記録のまとめ
	午後	ケアの見学・一部介助 実習全体の反省会 患者挨拶 挨拶	
カンファレンス など		評価	

## 老年看護学実習Ⅱ

- 目標
1. 老年期の対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな特徴と発達課題の達成状況が理解できる。
  2. 老年期の対象の健康障害の経緯、程度、要因、疾患を理解し、看護の展開ができる。
  3. 看護の実際を通して老年観を深めることができる。

目標	行動目標	内容
1. 老年期の対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな特徴と発達課題の達成状況が理解できる。	1) 老年期にある対象を4つの側面から統合的に捉え、発達課題や価値観への影響を説明できる。	(1) 老年期の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな特徴の理解 (2) 老年期の発達課題 (ハヴィガーストなど)
2. 老年期の対象の健康障害の経緯、程度、要因、疾患を理解し、看護の展開ができる。	1) 老年期にある対象の加齢による変化と疾患を理解し、ADL状況や日常生活への影響が説明できる。	(1) 対象の理解と看護に必要な情報の収集 (2) 情報の分析・解釈
	2) 1)を踏まえ、アセスメントに基づきQOLや安全・安楽に配慮した日常生活の援助が実施できる。	(1) ADLやQOL向上への計画と実施 (2) 安全・安楽に配慮した援助 (3) 実施の結果を踏まえた評価・修正
3. 看護の実際を通して老年観を深めることができる。	1) 他者の老年観や高齢者との関わりから、自己の老年観を養うことができる。	(1) 他者の老年観 (2) 実習前の自己の老年観 (3) カンファレンス後の老年観 (4) ACP(アドバンスケアプランニング)の考え方 (5) 高齢者の死のとらえ方や意向(リビングウィル)と必要な援助 (6) エンドオブライフケア (7) 文献を用いた実習後の自己の老年観

### <方法>

1. 初日に老年看護学実習Ⅱについてのオリエンテーションを受ける。
2. 初日に病棟オリエンテーションを受ける。
3. 受け持ち患者制とし、1例受け持つ。
4. 老年期の患者の特徴を理解し、看護を実践する。

### <時間>

8:00～16:30

### <提出物>

1. 行動予定表
2. 受け持ち患者記録
3. 看護技術チェック表
4. 自己評価表
5. 受け持ち患者状況用紙
6. 老年観レポート(学校指定のレポート用紙)

実習計画  
老年看護学実習Ⅱ

【1週目】

今週の目標		1. 老年看護学実習Ⅱの目的・目標が理解できる。 2. 老年看護学実習Ⅱに関する基礎的知識や技術を確認することができる。 3. 自らの実習の目標を明らかにした行動予定を書くことができる。 4. 老年期における対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな特徴が説明できる。 5. 対象の理解と看護に必要な情報を収集し、分析・解釈できる。 6. 中間評価で自己の課題を明確にできる。			
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 老年看護学実習Ⅱ オリエンテーション 病棟オリエンテーション 事前学習 患者紹介 情報収集 ケアの見学	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの見学・一部実施	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの一部実施・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの一部実施・報告
	午後	情報収集 ケアの見学 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの見学・一部実施 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの見学・一部実施 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス・評価など					中間評価
看護過程展開		アセスメント	アセスメント	アセスメント	問題の明確化

【2週目】

今週の目標		1. ADLやQOL向上、意思を尊重した計画と実施ができる。 2. 安全・安楽に配慮した援助ができる。 3. 実施の結果を踏まえた評価・修正ができる。 4. 他者の老年観や対象との関わりから、自己の老年観を養うことができる。 5. 中間評価での自己の課題に取り組むことができる。			
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告
	午後	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス・評価など		中間評価		カンファレンス	
看護過程展開		計画	計画・実施	実施・評価	実施・評価

【3週目】

今週の目標		1. ADLやQOL向上、意思を尊重した計画と実施ができる。 2. 安全・安楽に配慮した援助ができる。 3. 実施の結果を踏まえ評価・修正し、援助の実施ができる。 4. 中間評価での自己の課題を評価することができる。			
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 状態観察・報告 ケアの実施・報告	【学内】 記録のまとめ
	午後	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの実施・報告 実習全体の反省会 挨拶	実習振り返り
カンファレンス・ 評価など		最終評価	最終評価		
看護過程展開	実施・評価	実施・評価	実施・評価		

# 小児看護学実習

## 小児看護学実習(2単位)

目的 小児期にある対象の成長・発達を統合的に捉え、それぞれの健康レベルに応じて、成長・発達の促進及び健康の保持増進のため、家族を含め適切な看護が実践できる基礎的能力を養う。

### 目標

1. 健康な子どもの成長・発達を理解できる。
2. 対象の身体的、心理・社会的、スピリチュアルな特徴と発達課題を理解できる。
3. 子どもへの関心を深め、人格を尊重した態度を身につける。
4. 小児とその家族の健康上の問題を理解し、対象に応じた看護を学ぶことができる。
5. 子どもの安全を守る重要性を理解できる。
6. 障害をもちながら成長・発達している対象への援助と多職種連携について理解できる。

### 実習区分

実習区分	単位/時間	時 期	日 数	実習施設
小児看護学実習	2単位 (90時間)	3年生	4 日	いわき市立保育所(園)
			4 日	いわき市医療センター
			3 日	社会福祉法人いわき福音協会 福島整肢療護園
			1 日	実習オリエンテーション

### \*小児看護学実習 用語の定義

子ども : 様々な健康レベルにある子ども  
 小児 : 疾患や障がいがあり、医療・看護が必要な15歳までの子ども  
 対象 : 小児と家族(小児看護の対象はさまざまな健康レベルにある小児と家族)  
 患児 : 受け持ち患児  
 ※本内容に合わせ、要項上の表記も変更した。

実習内容

内訳	保育所(園)	いわき市医療センター	福島整肢療護園
対象	健康な乳幼児期にある子ども	手術を受ける小児と家族 急性期症状を持つ小児と家族 慢性期症状を持つ小児と家族 先天的な問題を持つ小児と家族 活動制限が必要な小児と家族	障がいを持つ小児と家族 慢性期症状を持つ小児と家族 先天的な問題を持つ小児と家族 活動制限が必要な小児と家族 リハビリテーションを受ける小児と家族
主な疾患		呼吸器疾患(肺炎、気管支炎、気管支喘息) 循環器疾患(川崎病) 消化器疾患(胃腸炎) 腎泌尿器疾患(ネフローゼ症候群、陰嚢水腫) 運動器疾患(骨折、先天性股関節脱臼) 皮膚疾患(熱傷) 耳鼻咽喉科疾患(アデノイド、睡眠時無呼吸症候群、中耳炎、副鼻腔炎) 口腔疾患(埋伏歯) 内分泌疾患(I型糖尿病)	運動器疾患 神経・筋疾患(てんかん、筋ジストロフィー、脳性麻痺、二分脊椎症、脊椎側彎症) 先天異常 外傷(頭部外傷)
主な症状		発熱、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、浮腫、不整脈、血圧上昇、嘔吐、下痢、脱水、けいれん、運動障害、関節可動域障害、知覚異常、腹痛、腹部膨満、排泄障害、便秘、発疹、発赤、口唇異常、睡眠障害、機嫌・活気	けいれん、意識障害、運動障害、麻痺、筋緊張、関節拘縮、歩行困難、知覚異常、腹部膨満、排泄障害、便秘、言語障害、嚥下障害、機嫌・活気
治療・検査 *年齢に応じた説明と同意(承認)		採血、採尿、与薬、輸液療法、吸入、安静療法、食事療法、手術療法、酸素療法、運動療法、リハビリテーション療法	与薬、吸入、安静療法、食事療法、酸素療法、理学療法、言語療法、作業療法、摂食・嚥下療法、体位ドレナージ、肺理学療法
主な看護・学習内容	形態的成長(身体バランス・生歯など) 運動の発達(粗大運動・微細運動) 心理・社会的発達(認知・情緒・社会性・言語・コミュニケーション) 基本的生活習慣の獲得と自立に向けた援助(食事・排泄・清潔・更衣・睡眠など) 遊びの種類と特徴 安全面への対策(予測される事故、事故防止対策、感染予防対策)	対症看護 小児の手術の特徴 計画手術と緊急手術 小児と家族の準備状況の把握 感染症と他の疾患との区別と対処 活動制限の目的と小児への影響 身体的、精神的、社会的影響 小児と家族への日常生活の援助 入院による生活の変化 長期的に治療を必要とする小児と家族への看護 インフォームド・アセント(コンセント) プレパレーション 心身の苦痛・不快の緩和 遊び・学習支援 退院への看護	障害の種類と定義 障害の受容 身体的、精神的、社会的影響 心身の苦痛・不快の緩和 対症看護 機能訓練 長期的に治療を必要とする小児と家族への看護 入院による生活の変化 基本的ニードの充足 QOLの支援 小児と家族への日常生活の援助 社会資源の活用 活動制限の目的と小児への影響 感染症と他の疾患との区別と対処 インフォームド・アセント(コンセント) プレパレーション 遊び・学習支援

## 小児看護学実習(保育所・保育園)

- 目標
1. 子どもに関心を持ち、接することができる。
  2. 地域の保育所(園)に通園している子どもを知る。
  3. 保育における子どもの安全管理を知る。

目標	行動目標	内容
1. 子どもに関心を持ち、接することができる。	1) 子どもの個性を尊重した態度で接することができる。	(1) 子どもへの接し方(挨拶、言葉遣い、態度など)
2. 地域の保育所(園)に通園している子どもを知る。	1) 園児の1日の過ごし方がわかる。	(1) 登園・下園 (2) 食事 (3) 遊び (4) 午睡
	2) 成長・発達に合わせた基本的な生活習慣の獲得についてわかる。	(1) 食行動の発達と自立 (2) 睡眠行動(午睡の目的・時間・入眠儀式など) (3) 清潔行動の発達と自立 (4) 更衣行動の発達と自立 (5) 排泄行動の発達と自立
	3) 子どもと接し、遊びの重要性がわかる。	(1) 遊びの意義 (2) 成長・発達に合わせた遊びの種類と援助のポイント (3) 使用している玩具・遊具
3. 保育における子どもの安全管理を知る。	1) 子どもの安全・危険防止に配慮した保育所(園)の構造、管理体制について知る。	(1) 構造・設備・感染防止対策・防犯対策など (2) 遊具・玩具の管理、整理整頓など

### <方法>

1. 事前に小児看護学実習オリエンテーションを受ける。
2. 保育士と行動をともにし、子どもへの対応(援助)を学ぶ。

### <時間>

8:30～17:00

### <提出物>

1. 実習記録
2. 自己評価表
3. 実習振り返りシート
4. 反省会記録
5. レポート

\* 提出物は担当教員が提示した期日に提出

## 小児看護学実習(いわき市医療センター)

- 目標
1. 入院を余儀なくされた患児・家族に配慮し、接することができる。
  2. 患児の成長・発達段階がわかる。
  3. 小児看護の特徴を踏まえ、対象に応じた看護を学ぶことができる。
  4. 小児病棟における安全管理体制を知る。

目標	行動目標	内容
1.入院を余儀なくされた患児・家族に配慮し、接することができる。	1) 患児や家族の思いを配慮し接することができる。	(1) 患児・家族への接し方(挨拶、言葉遣い、態度など)
2.患児の成長・発達段階がわかる。	1) 対象との関りやデータ等から成長・発達段階が説明できる。	(1) 身体的特徴(形態的成長・機能的成長・疾患的特徴) (2) 運動の発達(粗大運動・微細運動) (3) 心理・社会的発達(認知、情緒、社会性、言語、コミュニケーション) (4) 楽しみ、養育観 (5) 生活背景(生育歴、家庭環境、キーパーソン、入院前後の生活) (6) 発達段階(エリクソン、ピアジェ、ボウルビイ)
3.小児看護の特徴を踏まえ、対象に応じた看護を学ぶことができる。	1) 患児の疾患、病態生理がわかる。	(1) 病態生理(疾患の原因・誘因・発症メカニズム) (2) 検査 (3) 治療
	2) 入院による患児・家族への影響がわかる。	(1) 入院後の生活変化(患児・家族) (2) 家族関係・役割調整
	3) 患児の発達段階、疾患(症状)に応じた看護を見学・体験できる。	(1) 治療・検査の介助 (2) プレパレーション (3) 日常生活の援助
	4) 入院中の患児にとっての遊び・学習の意義がわかる。	(1) 患児にとっての遊び・学習の意義とその援助
4.小児病棟における安全管理体制を知る。	1) 小児病棟の特殊性、構造、管理体制について知る。	(1) 小児病棟の特殊性、構造、管理体制(構造、設備、感染防止対策、事故防止対策、防犯対策など)

### <方法>

1. 事前に小児看護学実習オリエンテーションを受ける。
2. 受け持ち患者制とし、学生1～2名で1例受け持つ。

### <時間>

8:30～17:00

### <提出物>

1. 行動予定表
  2. 受け持ち患者記録
  3. レポート
  4. 自己評価表
  5. 看護技術チェック表、受け持ち患者状況用紙
- \* 提出物は担当教員が提示した期日に提出

## 小児看護学実習(福島整肢療護園)

- 目標
1. 障がいのある小児それぞれの個性を尊重した態度で接することができる。
  2. 障がいを持ちながら成長・発達している対象への援助と多職種連携の実際を知る。

目標	行動目標	内容
1.障がいのある小児それぞれの個性を尊重した態度で接することができる。	1)対象の障害を踏まえ暖かい態度で接することができる。 2)非言語的コミュニケーションを活用し接することができる。	(1)小児への接し方(挨拶、言葉遣い、態度など) (2)非言語的コミュニケーション (3)アドボカシー
2.障がいを持ちながら成長・発達している対象への援助と多職種連携の実際を知る。	1)小児の疾患(症状)や治療がわかる。	(1)疾患(病名)と代表的な症状 (2)治療 (3)セルフケア能力 (4)機能訓練 ①理学療法 ②作業療法 ③言語訓練(言語・コミュニケーション) ④摂食・嚥下訓練
	2)小児の発達段階・健康障害に応じた日常生活の援助を見学・体験できる。	(1)主な症状に対する基本的な看護 (2)成長・発達や障害、自立度に応じた日常生活の援助 (3)言語的・非言語的コミュニケーション (4)生活環境
	3)障がいのある小児にとっての遊び・学習への援助を知ることができる。	(1)障害のある小児にとっての遊び・学習の意義と援助
	4)障がいのある小児の成長・発達を促す多職種連携の実際を知る。	(1)連携する多職種の種類・役割 (2)教育機関との連携 (3)小児の継続看護 ①看護師の役割 ②地域医療の継続化

### <方法>

1. 事前に小児看護学実習オリエンテーションを受ける。
2. 実習指導者と行動をともにし小児への対応(援助)を学ぶ。

### <時間>

8:30～17:00

### <提出物>

1. 行動予定表
2. レポート
3. 自己評価表
4. カンファレンス記録
5. 看護技術チェック表

\* 提出物は担当教員が提示した期日に提出

実習計画  
小児看護学実習

【事前オリエンテーション】

目 標	1.小児看護学実習の目的・目標が理解できる。	
内 容	月日	月 日 ( )
	午前	挨拶 保育所(園)実習オリエンテーション(学内) 福島整肢療護園実習オリエンテーション(学内)
	午後	いわき市医療センターオリエンテーション(臨地) 挨拶

【保育所(園)実習(1日目～3日目)】

目 標	1. 健康な子どもの成長・発達が理解できる。 2. 子どもの個性や人格を尊重した態度で接することができる。 3. 基本的生活習慣の獲得と自立に向けた援助について理解できる。 4. 子どもにとっての遊びの意義、種類、援助について理解できる。 5. 保育所(園)の構造、管理体制について理解できる。 6. 子どもの発達段階から起こり得る事故を理解できる。 7. 子どもの安全・危険防止に配慮した環境整備について理解できる。		
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )
		挨拶 保育所(園)実習 臨地オリエンテーション(1日目) 保育活動の見学・一部体験 ・子どもとのコミュニケーション ・遊びの援助 ・基本的生活習慣の獲得と自立に向けた援助(食事・睡眠・清潔・更衣・排泄) ・安全・危険防止に配慮した環境整備 反省会 記録 挨拶	
			など
備考	保育士と行動をともにし、子どもへの対応(援助)を学ぶ。		

【保育所(園)実習(4日目)】

目 標	1. 実習での学びを振り返り、まとめることができる。 2. 学びの振り返りを行い、自分の考えや意見を述べるができる。 3. グループメンバーの意見を聞き、考えを深めることができる。 4. クラスで学びの共有ができる。	
学生の行動	月日	月 日 ( )
	午前	実習の振り返り・まとめ、発表
	午後	記録のまとめ

【いわき市医療センター実習】

<p>目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児病棟の特殊性や受け持ち患児の生活の場を理解できる。</li> <li>2. 小児の身体的、心理・社会的、スピリチュアルな特徴と発達課題を理解できる。</li> <li>3. 小児の個性や人格を尊重する態度がとれる。</li> <li>4. 患児の疾患、病態生理を理解できる。</li> <li>5. 健康障害や入院が患児・家族へ及ぼす影響を理解できる。</li> <li>6. 患児の発達段階・健康障害に応じた看護について、見学・体験を通して理解できる。</li> <li>7. 小児の発達段階から起こり得る事故を理解し、対象の安全・危険防止に配慮した環境整備ができる。</li> <li>8. 患児にとっての遊び・学習の意義が理解できる。</li> <li>9. カンファレンスをとおして、グループメンバーで学びの共有ができる。</li> </ol>				
<p>学生の行動</p>	<p>月日</p>	<p>月 日 ( )</p>	<p>月 日 ( )</p>	<p>月 日 ( )</p>	<p>月 日 ( )</p>
	<p>午前</p>	<p>ミーティング聴取・挨拶 病棟オリエンテーション (小児病棟の特殊性・ 構造・設備・管理体制・ 個人情報の管理など) 受け持ち患児の選定・ 児と家族への挨拶・自 己紹介 情報収集 PC操作方法の説明 記録</p>	<p>ミーティング聴取・挨拶 行動予定発表 児と家族への挨拶 必要時、状態観察、バイ タルサイン再検・報告 ケアの見学・一部体験 情報収集 コミュニケーション・遊び 記録</p>	<p>ミーティング聴取・挨拶 行動予定発表 児と家族への挨拶 必要時、状態観察、バイ タルサインの再検・報告 ケアの見学・一部体験 情報収集 コミュニケーション・遊び 記録</p>	<p>ミーティング聴取・挨拶 行動予定発表 児と家族への挨拶 必要時、状態観察、バイ タルサインの再検・報告 ケアの見学・一部体験 情報収集 コミュニケーション・遊び 記録</p>
<p>午後</p>	<p>ケアの見学 コミュニケーション・遊び 情報収集 記録 ショートカンファレンス 挨拶</p>	<p>ケアの見学・一部体験 状態観察、バイタルサイ ン測定の実施 コミュニケーション・遊び 情報収集 記録 ショートカンファレンス 挨拶</p>	<p>ケアの見学・一部体験 状態観察、バイタルサイ ン測定の実施 コミュニケーション・遊び 情報収集 記録 ショートカンファレンス 挨拶</p>	<p>ケアの見学・一部体験 状態観察、バイタルサイ ン測定の実施 コミュニケーション・遊び 情報収集 記録 最終カンファレンス ショートカンファレンス 挨拶</p>	
<p>備考</p>					<p>最終カンファレンスで は、4日間の振り返り及 び学びを発表し、看護 師からの助言・指導を 受ける。</p>

【福島整肢療護園実習(1日目・2日目)】

目標	1. 施設の特徴と小児の生活の場を理解できる。 2. 小児の個性や人格を尊重する態度がとれる。 3. 小児の疾患・障害(症状)や治療について理解できる。 4. 小児の成長・発達、健康障害に応じた遊びや日常生活の援助を体験できる。 5. 施設における看護師の役割と多職種連携について理解できる。	
病棟配置	ひかり館	ひかり館
	月日 月 日 ( )	月日 月 日 ( )
学生の行動	午前	病棟内オリエンテーション 挨拶・自己紹介 行動予定発表 入園者紹介 日中活動への参加 口腔ケア・経鼻経管栄養見学 食事介助見学
	午後	挨拶 機能訓練見学 行動予定発表 日中活動への参加 口腔ケア・経管栄養(胃瘻)見学 食事介助見学
		など
	清拭・更衣介助の見学、一部実施 姿勢保持具への移乗介助の見学 入園者とのコミュニケーション 移乗介助の見学・散歩 エデンの家見学 記録 ショートカンファレンス 明日の行動予定の確認 挨拶	清拭・更衣介助の見学、一部実施 姿勢保持具への移乗介助の見学 入園者とのコミュニケーション 移乗介助の見学・散歩 記録 ショートカンファレンス 挨拶
備考	*2グループに分かれて、実習指導者から指導を受ける。 *2日目はボイタ療法など、機能訓練の見学を行う。 *ショートカンファレンスでは、看護師からの助言・指導を受ける。	

【福島整肢療護園実習(3日目)】

今日の目標	1. 実習での学びを振り返り、まとめることができる。 2. カンファレンスを行い、自分の考えや意見を述べるができる。 3. カンファレンスを行い、グループメンバーの意見を聞き、考えを深めることができる。	
	月日	月 日 ( )
学生の行動	<b>【学内】</b> 1.カンファレンス: ①「福島整肢療護園実習での学び」 ②「小児観」 2.記録のまとめ	
	*①のカンファレンスのテーマについては、学生が内容を決める。	
備考		

# 母性看護学実習

## 母性看護学実習（2単位）

目的 周産期にある母子と家族を含め、女性のライフステージにおける特徴を理解し、適切な看護が実践できる基礎的能力を養う。

### 目標

1. 女性のライフステージにおける特徴を理解し、必要な看護・保健指導を学ぶ。
2. 妊娠・分娩・産褥各期の正常経過、および新生児の生理的特徴を理解し、対象への基本的看護を学ぶ。
3. 母性看護における継続看護の役割を理解する。
4. 母性看護の実践を通して母性観・父性観を養うことができる。

### 実習区分

実習区分	単位／時間	時期	日数	実習施設
母性看護学実習	2単位 (90時間)	3年生	4日	いわき市医療センター
			2日	特定非営利活動法人 Commune with 助産師 こみゅーん助産院
			6日	実践活動外の学内実習

実習内容

実習施設	いわき市医療センター	特定非営利活動法人 Commune with 助産師 こみゅーん助産院	実践活動外の学内実習
対象	正常経過にある妊産褥婦 異常経過にある妊産褥婦 正常な経過にある新生児	思春期、成熟期、正常な経過にある妊婦・褥婦 および正常な経過にある新生児	周産期にある母子と家族
主な疾患	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、 多胎妊娠、切迫流早産、前置胎盤、 合併症(精神疾患)、分娩遷延、 弛緩出血、感染症合併、 産褥期精神障害、乳腺炎、 高ビリルビン血症、低出生体重児	/	/
主な症状	高血圧、蛋白尿、尿糖、浮腫、 腹部緊満、出血、破水、腰痛、 下腹部痛、子宮復古不良、 貧血、乳房痛、発熱		
治療・検査	妊婦健診、産後健診、内診、 体重測定、尿検査、超音波診断、 子宮頸部細胞診、膣分泌物検査、 血液検査、ノンストレステスト、 レオポルド触診法、分娩誘発、 胎児心拍モニタリング、急速遂娩、 出生直後の児の評価、 新生児の発育評価、 新生児黄疸の評価、光線療法、 新生児聴覚スクリーニング検査、 新生児マススクリーニング検査		
主な看護	I. 妊娠期 ; 正常な妊娠経過 妊娠期のマイナートラブル ハイリスク合併妊娠などに応じた 保健相談、準備教育 II. 分娩期 ; 正常な分娩経過の看護 分娩遷延の第1期～第4期の看護 帝王切開術前後の看護 III. 産褥期 ; 正常な産褥経過の看護 会陰縫合部痛・子宮復古不全・ 乳房トラブルなどのリスクに応じた 身体機能の回復支援 児との関係確立支援、 育児技術支援 家族関係再構築支援 IV. 新生児期 ; 正常な経過にある新生児の看護 生活環境整備 基本的ニーズの充足		

## 母性看護学実習 (いわき市医療センター)

- 目標
1. 妊娠・分娩・産褥各期の正常経過、および新生児の生理的特徴を理解し、対象への基本的看護を学ぶ。
  2. 母性看護における継続看護の役割を理解する。
  3. 母性看護の実践を通して母性観・父性観を養うことができる。

目標	行動目標	内容
1. 妊娠・分娩・産褥各期の正常経過、および新生児の生理的特徴を理解し、対象への基本的看護を学ぶ。	1) 分娩期の看護を助産師・看護師と共に体験することができる。	(1) 第1期の看護 (2) 第2期の看護 (3) 第3期～第4期の看護
	2) 産褥期の生理的変化および新生児の胎外生活への適応状態について説明できる。	(1) 母体 ① 退行性変化、進行性変化 ② 授乳行動、育児行動 (2) 新生児 ① 一般状態 ② 哺乳力・体重・排泄状態 ③ 黄疸・皮膚状態
	3) 産褥期の看護を助産師・看護師と共に体験することができる。	(1) 身体機能の回復支援 (2) 児との関係確立支援 (3) 育児技術支援 (4) 家族関係再構築支援
	4) 新生児の看護を助産師・看護師と共に体験することができる。	(1) 生活環境整備 (2) 基本的ニードの充足
2. 母性看護における継続看護の役割を理解できる。	1) 妊娠から産褥にわたる継続看護の必要性を説明できる。	(1) 健康診査 (2) 健康教育 (3) 母子健康手帳の活用 (4) 退院指導
3. 母性看護の実践を通して母性観・父性観を養うことができる。	1) 体験を通し、自己の母性観・父性観を記述することができる。	(1) 児への思い、親子関係 (2) 母親像・父親像 (3) 家族構成・役割

### <方法>

1. 実践活動外の学内実習において母性看護学実習についてオリエンテーションを受ける。
2. 病棟実習初日に実習場のオリエンテーションを受ける。
3. 病棟実習では受け持ち制とし、学生2名で1例受け持つ。  
(5名の実習グループの際は学生1名で1例の場合あり)
4. 受け持ち内で褥婦係・新生児係にわかれ、看護職と行動を共にし援助場面の見学及び一部を体験する。
5. 褥婦係・新生児係は日毎に交替し、情報の共有を行う。

### <時間>

8:30～17:00

### <提出物>

1. 行動予定表
  2. 受け持ち患者記録 (I号用紙、関連図)
  3. 自己評価表
  4. 看護技術チェック表、受け持ち患者状況用紙
  5. 母性観・父性観レポート
- \* 提出物は担当教員が指示した期日に提出

## 母性看護学実習(特定非営利活動法人 Commune with 助産師 こみゅーん助産院)

- 目標
1. 女性のライフステージにおける特徴を理解し、必要な看護・保健指導を学ぶ。
  2. 地域の特性を踏まえた母性領域における継続看護の必要性がわかる。

目標	行動目標	内容
1.女性のライフステージにおける特徴を理解し、必要な看護・保健指導を学ぶ。	1) 思春期からの健康支援の必要性と内容を説明できる。	(1) 思春期・成熟期の看護 ①性教育 ②保健相談 ③健康教育
2.地域の特性を踏まえた母性領域における継続看護の必要性がわかる。	1) 地域における母子支援の見学を通して、継続看護の必要性と支援内容がわかる。	(1) 妊娠期の看護 ①保健相談 ②準備教育 (2) 産褥期・授乳期の看護 ①身体機能の回復支援 ②保健相談 ③授乳・育児技術支援 ④母子健康手帳の活用

### <方法>

1. 事前に実習施設のオリエンテーションを受ける。
2. 看護職と行動を共にし、援助場面の見学を行う。

### <時間>

8:00～16:30

### <提出物>

1. 行動予定表
2. レポート
3. 自己評価表

\* 提出物は担当教員が指示した期日に提出

## 母性看護学実習（実践活動外の学内実習）

- 目標 1. 妊娠・分娩・産褥各期の正常経過、および新生児の生理的特徴を理解し、対象への基本的看護を学ぶ。

目標	行動目標	内容
1. 妊娠・分娩・産褥各期の正常経過、および新生児の生理的特徴を理解し、対象への基本的看護を学ぶ。	1) 妊婦健康診査の内容、時期、保健相談のポイントが述べられる。	(1) 健康診査 ①問診 ②診察 ③検査 (2) 健康教育 ①保健相談 ②準備教育 ③母子健康手帳の活用
	2) 紙上事例妊婦に対し、模擬保健指導を行うことができる。	(1) 妊娠の経過 (2) パンフレットの作成 (3) 模擬保健指導
	3) 模擬分娩により、分娩期の看護を体験することができる。	(1) 分娩の経過 (2) 分娩期の看護 ①産痛緩和法 ②呼吸法・弛緩法 ③家族への援助
	4) 産褥期の観察に必要な知識と技術を確認できる。	(1) 退行性変化・進行性変化の観察 (2) 産後の家族の役割 (3) 育児技術支援
	5) 新生児の観察に必要な知識と技術を確認できる。	(1) 沐浴法 (2) 新生児の生理的特徴と観察

### <方法>

1. 学内において、紙上事例を用いたシミュレーションおよびロールプレイング実習を行う。
2. ビデオ教材やモデル人形を用いて、観察や指導に必要な知識・技術を学ぶ。

### <時間>

8:00～16:30

### <提出物>

1. 行動予定表
  2. 作成したパンフレット
- \* 提出物は担当教員が指示した期日に提出

実習計画  
母性看護学実習

【事前オリエンテーション】

目 標	1. 地域周産期母子医療センターの役割を理解できる。 2. 助産院の役割を理解することができる。 3. 産褥期の観察に必要な知識と技術を確認できる。 4. 新生児の観察に必要な知識と技術を確認できる。 5. 母子健康手帳の活用方法を知ることができる。	
内 容	月日	月 日 ( )
	午前	挨拶 褥婦および新生児の観察に必要な知識と技術の確認
	午後	いわき市医療センター・こみゅーん助産院オリエンテーション(学内) 挨拶

実習計画  
母性看護学実習

【いわき市医療センター実習】

目標	1. 産科病棟の特徴を知ることができる。 2. 分娩期の看護を助産師・看護師と共に体験することができる。 3. 産褥期の生理的变化および新生児の胎外生活への適応状態について説明できる。 4. 産褥期の看護を助産師・看護師と共に体験することができる。 5. 新生児の看護を助産師・看護師と共に体験することができる。 6. 妊娠から産褥にわたる継続看護の必要性を説明できる。 7. 体験を通し、自己の母性観・父性観を記述することができる。		
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 ミーティング聴取 産科病棟オリエンテーション 状態観察や指導の見学 ①褥婦係②新生児係 にわかる 受け持ち紹介	挨拶 ミーティング聴取 行動予定発表 状態観察や指導の見学・一部体験・報告 ①褥婦係②新生児係 にわかる ＊分娩見学は状況に応じて
	午後	授乳観察や指導の見学 ＊分娩見学は状況に応じて 記録 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	授乳観察や指導の見学 記録 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス など	受け持ち褥婦・新生児の情報収集 産褥期の生理的变化および新生児の胎外生活への適応状態についてアセスメントする		
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 ミーティング聴取 行動予定発表 状態観察や指導の見学・一部体験・報告 ①褥婦係②新生児係 にわかる ＊分娩見学は状況に応じて	挨拶 ミーティング聴取 行動予定発表 状態観察や指導の見学・一部体験・報告 ①褥婦係②新生児係 にわかる ＊分娩見学は状況に応じて
	午後	授乳観察や指導の見学 記録 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	記録のまとめ 病棟実習評価 カンファレンス 挨拶
カンファレンス など	カンファレンス		

## 実習計画

### 【特定非営利活動法人 Commune with 助産師 こみゅーん助産院】

今日の目標	1. 助産院の特徴と役割を知ることができる。 2. 妊娠期の看護を助産師・看護師と共に行動し、見学できる。 3. 産褥期・授乳期の看護を助産師・看護師と共に行動し、見学できる。 4. 思春期からの健康支援の必要性と内容を知ることができる。 5. 地域における母子支援の見学を通し、継続看護の必要性と支援内容を知ることができる 6. 実習を通し、自己の母性観・父性観を考えることができる。	
学生の行動	月日	月 日 ( )
	午前	挨拶 施設オリエンテーション(学内) 挨拶 挨拶 行動予定発表 環境整備 母子支援の見学 など
	午後	地域における母性看護の役割について 学内実習 挨拶 母子支援の見学 カンファレンス: 「こみゅーん助産院での学び」 挨拶 翌日の行動予定確認(学内)

【実践活動外の学内実習】

今週の目標	1. 妊婦健康診査の内容、時期が述べられる。 2. 妊娠期の保健相談のポイントが述べられる。 3. 事例の妊婦に対し必要な保健指導を検討し、パンフレットの作成ができる。 4. 事例の妊婦に対し模擬保健指導を行うことができる。 5. 模擬分娩により、分娩期の看護を体験することができる。		
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 ・妊婦健康診査における問診や診察の目的、方法を学習する ・妊娠期にある対象の特徴と健康教育を学習する	挨拶 妊婦の紙上事例を用いたシミュレーション 事例妊婦に対するパンフレット作成
	午後	・妊婦健康診査における問診や診察の目的、方法を学習する ・妊娠期にある対象の特徴と健康教育を学習する 翌日の行動予定確認 挨拶	事例妊婦に対するパンフレット作成 翌日の行動予定確認 挨拶
備考			
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 妊婦の紙上事例を用いたシミュレーション 事例妊婦に対するパンフレット作成	挨拶 妊婦の紙上事例を用いたシミュレーション 事例妊婦に対するパンフレット作成
	午後	事例妊婦に対するパンフレット作成 翌日の行動予定確認 挨拶	妊婦に対する模擬保健指導 翌日の行動予定確認 挨拶
備考	模擬保健指導は学生が相互に妊婦役を務める。		
学生の行動	月日	月 日 ( )	
	午前	挨拶 産婦の紙上事例を用いたシミュレーション	
	午後	模擬分娩 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	
備考	妊婦役、立ち合い分娩のパートナー役、看護学生役にわかる		

# 精神看護学実習

## 精神看護学実習(2単位)

目的 心の健康に障害をもつ人とその家族を理解し、生活者として捉え、あらゆる健康レベルに応じた適切な看護が実践できる基礎的能力を養う。

### 目標

1. 心の健康に障害をもつ人に対して関心を持ち、人格を尊重した対応ができる。
2. 心の健康に障害をもつ人との関わりを通して自己理解を深め、援助的關係に役立てることができる。
3. 心の健康に障害をもつ人との関わりを通して、必要な生活援助が展開できる。
4. 心の健康に障害をもつ人とその家族を支援するための社会資源の活用、保健医療福祉チームの一員として看護の役割を認識し、多職種連携・協働できる基礎的能力を身につける。

### 実習区分

実習区分	単位/時間	時期	日数	主な実習施設
精神看護学実習	2単位 (90時間)	3年生	12日	公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院

## 実習内容

内訳	公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院
対象	急性期状態にある心の健康に障害をもつ人と家族 慢性期状態にある心の健康に障害をもつ人と家族 社会復帰期状態にある心の健康に障害をもつ人と家族
主な疾患	統合失調症、躁うつ病、てんかん、神経症、老人精神障害、症状精神病、アルコール・薬物依存症、脳器質性精神障害、精神遅滞、人格障害、小児精神障害
主な症状	不安、抑うつ、幻覚、妄想、強迫、せん妄、認知症、離脱症状、不安緊張状態、ひきこもり状態、抑うつ状態、躁状態、幻覚妄想状態、意欲減退状態、不眠状態、拒絶・拒否、攻撃的行動、操作・試し行為、強迫行為
治療・検査	身体療法(薬物療法)、社会復帰療法、精神療法、治療環境、放射線および磁気による頭部検査、脳波検査、髄液検査、心理検査
主な看護	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人プロセスを通じた生活援助</li> <li>2. 対象にとって支持的な環境を整えるための援助</li> <li>3. 対象の生活能力・対人関係能力を高める援助</li> <li>4. 対応モデルの提示によって対象の健康な力を総合的に伸ばす援助</li> <li>5. 社会資源の提供と活用促進により対象のQOLを高める援助</li> </ol>

## 精神看護学実習

- 目標
1. 心の健康に障害をもつ人に対して関心を持ち、人格を尊重した対応ができる。
  2. 心の健康に障害をもつ人との関わりを通して自己理解を深め、援助的關係に役立てることができる。
  3. 心の健康に障害をもつ人との関わりを通して、必要な生活援助が展開できる。
  4. 心の健康に障害をもつ人とその家族を支援するための社会資源の活用、保健医療福祉チームの一員として看護の役割を認識し、多職種連携・協働できる基礎的能力を身につける。

目標	行動目標	内容
1.心の健康に障害をもつ人に対して関心を持ち、人格を尊重した対応ができる。	1)心の健康に障害をもつ人の治療的環境が理解できる。	(1) 学生が環境の一部であることをふまえた行動 (2) 精神科看護における安全管理 (3) 病棟環境の整備 (4) 隔離・身体拘束 (5) 入院中の行動制限 (6) 開放処遇
	2)心の健康に障害をもつ人の人権を尊重し、倫理に配慮した言動がとれるよう努めることができる。	(1) 自己決定の尊重 (2) 看護職の倫理綱領 (3) 精神保健福祉法(入院形態) (4) 入院患者の基本的な処遇 (5) 患者の意向の代弁 (6) 権利擁護
2.心の健康に障害をもつ人との関わりを通して自己理解を深め、援助的關係に役立てることができる。	1)心の健康に障害をもつ人の言動を理解し、受容的な態度で接することができる。	(1) 基本的信頼 (2) 自分の感情(陽性感情、陰性感情) (3) 相互の尊敬 (4) 批判せずあるがままを受け止める。
	2)コミュニケーション技術の必要性が分かり、対象に合わせたコミュニケーションを知ることができる。	(1) コミュニケーション技術の必要性 (2) 対象と医療従事者の接触場面 (3) コミュニケーション技法 (4) 対人関係の発展が困難となる要因
	3)対象との関わりを通し自己の感情や行動について理解できる。	(1) 自分自身の言動、気持ちの表現 (2) 自己の精神観 (3) 自己の性格 (4) プロセスレコード学習会(検討する場面、言動の意味)
	4)自己の課題を見つけ、具体的にあげることができる。	(1) 自己の傾向分析と課題の明確化
3.心の健康に障害をもつ人と関わりを通して、必要な生活援助が展開できる。	1)主な疾患・治療と看護について述べることができる。	(1) 疾患の理解(症状、経過、予測される症状、症状の原因、予後、検査、治療法) (2) 精神状態のアセスメント (3) 生育歴、生活歴、家族背景 (4) 入院や病気についての思い
	2)対象の生活行動を観察し、心の健康障害との関連について述べるができる。	(1) 日常生活の自立度 (2) 精神状態のアセスメント (3) 観察
	3)対象を生活者として捉え、必要な生活援助が実施できる。	(1) セルフケアレベル (2) 実施 (3) 評価

目標	行動目標	内容
4.心の健康に障害をもつ人とその家族を支援するための社会資源の活用、保健医療福祉チームの一員として看護の役割を認識し、多職種連携・協働できる基礎的能力を身につける。	1)心の健康に障害をもつ人の家族への影響と、家族支援の必要性について述べるができる。	(1) 家族の思い (2) 家族のケア負担 (3) 家族への支援
	2)リハビリテーションにおける看護としてのデイケア・訪問看護等について知ることができる。	(1)リハビリテーションの意義と実際 ( デイケア・グループホームの実際) (2) 訪問看護の実際 (3) 継続看護の必要性
	3)病院と地域における保健医療福祉チームとの連携について知り、看護師の役割を記述できる。	(1) 地域における社会資源となる場とシステム ( 福祉事務所・セルフヘルプグループ・作業所) (2) 保健医療福祉チームの連携の実際 ( 地域包括ケアシステム) (3) 地域における生活支援への課題 ( 社会的入院・長期在院・予防的対応)

<方法>

1. 事前に精神看護学実習についてのオリエンテーションを受ける。
2. 実習初日に病棟オリエンテーションを受ける。
3. 受け持ち患者制とし、1例を受け持つ。

<時間>

8:00～16:30

<提出物>

1. 行動予定表
2. 受け持ち患者記録
3. プロセスレコード
4. 目標4についてのレポート(学校指定のレポート用紙)
5. 自己評価表
6. 看護技術チェック表、受け持ち患者状況用紙

\* 提出物は実習記録日の16:30まで担当教員へ提出する。

実習計画  
精神看護学実習

【1週目】

今週の目標	1. 精神看護学実習の目的・目標が理解できる。 2. 精神看護学実習に関する基礎知識や技術を確認することができる。 3. 心の健康に障害をもつ人の治療的環境が理解できる。 4. 心の健康に障害を持つ人の人権を尊重し、倫理に配慮した行動ができる。 5. 対象の言動を理解し、受容的な態度で接することができる。 6. コミュニケーション技術の必要性が分かり、対象に合わせたコミュニケーションを知ることができる。 7. 対象と場を共有することの重要性を述べることができる。 8. 主な疾患・治療と看護について述べるができる。				
	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
学生の行動	午前	挨拶 精神看護学実習オリエンテーション 病棟オリエンテーション 受け持ち患者紹介 情報収集	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 ケアの見学・一部実施 状態観察・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 ケアの一部実施・報告 状態観察・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 ケアの一部実施・報告 状態観察・報告
	午後	情報収集 ケアの見学 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの見学・一部実施 状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの見学・一部実施 状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの一部実施・報告 状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス・評価など		病棟見学		プロセスレコード学習会	中間評価
看護過程展開		アセスメント	アセスメント	アセスメント	問題の明確化

【2週目】

今週の目標	1. 対象との関わりを通し自己の感情や行動について理解できる。 2. 対象を生活者として捉え、必要な生活援助ができる。 3. 日常生活の援助を通して精神状態を評価し、対象に応じた援助へ修正できる。 4. リハビリテーションにおける看護としてのデイケア・訪問看護等について知ることができる。 5. 対象の生活行動を観察し、心の健康障害との関連について述べるができる。				
	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
学生の行動	午前	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 ケアの一部実施・報告 状態観察・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 ケアの一部実施・報告 状態観察・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 ケアの一部実施・報告 状態観察・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 ケアの一部実施・報告 状態観察・報告
	午後	状態観察・報告 ケアの一部実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの一部実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの一部実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	状態観察・報告 ケアの一部実施・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶
カンファレンス・評価など		OT見学		デイケア見学・体験	訪問看護の説明
看護過程展開		計画・実施	計画・実施	実施・評価	実施・評価

【3週目】

今週の目標		1. 自己の課題を見つけ、具体的にあげることができる。 2. 病院と地域における保健医療福祉チームとの連携について知り、看護師の役割を理解する。 3. 心の健康に障害をもつ人の家族への影響と、家族支援について述べるができる。			
学生の行動	月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )
	午前	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 ケアの実施・報告 状態観察・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 ケアの実施・報告 状態観察・報告	挨拶 申し送り聴取 行動予定発表 環境整備 ケアの実施・報告 状態観察・報告	【学内】 記録のまとめ
	午後	ケアの実施・報告 状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの実施・報告 状態観察・報告 ショートカンファレンス 翌日の行動予定確認 挨拶	ケアの実施・報告 状態観察・報告 実習全体の反省会 挨拶	実習振り返り
カンファレンス・評価など	グループホーム説明			最終評価	
看護過程展開	実施・評価	実施・評価		実施・評価	

# 看護総合実習

## 看護総合実習(2単位)

目的 看護師としての責任と役割を果たすために、統合した看護実践能力を養う。

### 目標

1. チームで対象に必要な看護が展開できる。
2. 看護師としての責任と役割を理解し、チームリーダー、チームメンバーとして行動できる。
3. 夜間における看護師の役割を理解できる。
4. 夜間の対象の状況が理解できる。
5. 病棟の看護管理を理解できる。

### 実習区分

実習区分	単位/時間	時期	日数	実習施設
看護総合実習	2単位 (90時間)	3年生	12日	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院

## 実習内容

内 訳	公益財団法人磐城済世会 松村総合病院
対 象	前期高齢者(65～74歳)、後期高齢者(75～84歳)、超高齢者(85歳～) 病状安定期にあり、入院治療をする必要はないが、リハビリテーションや看護・介護を必要とする要介護者。病状が安定している長期療養患者であって、カテーテルを装着している等の常時医学的管理が必要な要介護者。
主な疾患	循環器疾患(心不全など)、呼吸器疾患(老人性肺炎・慢性閉塞性肺疾患など)、 運動器疾患(骨粗鬆症・変形性関節炎・慢性関節リウマチ・骨折など)、 脳・神経障害(脳梗塞・認知症・パーキンソン症候群など)、 泌尿器疾患(排尿困難・前立腺肥大など)、精神疾患(うつ病・せん妄・妄想性障害など)、 感染・感覚・歯科疾患(老年性感染症・疥癬など)、痒痒性皮膚疾患、白内障、難聴、歯周病など
主な症状	脱水、呼吸困難、喘鳴、浮腫、褥瘡、不整脈、血圧異常、動悸、便秘、食欲不振、排尿障害、 摂食障害、運動機能障害、知覚異常、意識障害、嚥下障害、言語障害、高次機能障害、 眩暈、睡眠障害、腎不全、貧血、掻痒感、低栄養、視聴覚障害、難聴、認知症など
治療・検査	薬物療法、安静療法、食事療法(高カロリー輸液、経管栄養含む)、理学療法、作業療法、 嚥下・摂食訓練、言語療法、酸素療法など
主な看護	廃用症候群の予防、対象の闘病意欲を引き出す援助、日常生活援助、自立を促す援助、 QOLを高める援助、診察介助、処置・検査介助

## 看護総合実習

- 目標
1. チームで対象に必要な看護が展開できる。
  2. 看護師としての責任と役割を理解し、チームリーダー、チームメンバーとして行動できる。
  3. 夜間における看護師の役割を理解できる。
  4. 夜間の対象の状況が理解できる。
  5. 病棟の看護管理を理解できる。

目標	行動目標	内容
1. チームで対象に必要な看護が展開できる。	1) 各自、対象のよりよい看護に必要な情報収集ができる。	(1) ヘンダーソンの基本的看護の構成要素に基づいた情報収集 (2) 情報の管理・共有化
	2) 各自が分析解釈したものをチーム間で共通理解し、整理できる。	(1) 分析解釈の共有化 (2) 対象にあった分析解釈の選択
	3) チーム間で看護上の問題を明確にできる。	(1) 看護問題の共有化 (2) 対象にあった看護問題の抽出 (3) 優先順位の決定
	4) チーム間の一致した考えのもとに看護計画が立案できる。	(1) 短期目標、期待される結果の共有化 (2) 対象にあった短期目標・期待される結果の選択 (3) OP(観察計画)、TP(直接的援助計画)、EP(指導計画)の共有化 (4) OP(観察計画)、TP(直接的援助計画)、EP(指導計画)の選択
	5) チーム間で一貫した看護が実施できる。	(1) 対象の状況に合わせた応用・発展した看護技術の提供 (2) メンバー間で一致した援助方法の実施 (3) 多職種との連携や協働
	6) 行った看護について、チーム間で評価、修正できる。	(1) 評価、修正の共有化 (2) 1)～5)までの妥当性とその判断
2. 看護師としての責任と役割を理解し、チームリーダー、チームメンバーとして行動できる。	1) 看護チームの意義・機能について説明できる。	(1) さまざまな看護体制の特徴 (2) チームワーク (3) 情報伝達・共有 (4) チームとしての意思決定
	2) リーダーの役割が果たせるように努めることができる。	(1) 学生チームリーダーの体験 (2) 申し送り、病棟カンファレンス参加の体験 (3) リーダーとしての判断 (4) タイムスケジュールと多重課題の優先順位の決定 (5) 状況に応じた報告・連絡・相談
	3) メンバーの役割が果たせるように努めることができる。	(1) 学生チームメンバーの体験 (2) 病棟カンファレンス参加の体験 (3) メンバーとしての判断 (4) タイムスケジュールと多重課題の優先順位の決定 (5) 状況に応じた報告・連絡・相談

目標	行動目標	内容
3.夜間における看護師の役割を理解できる。	1) 夜勤看護師と行動を共にし、夜勤の看護業務を体験できる。	(1) 一勤務帯のシステム・看護師の業務内容 (2) 安全管理 (3) 緊急時の対応・連絡体制
4.夜間の対象の状況が理解できる。	1) 夜勤看護師と行動を共にし、夜間の対象の様子を知ることができる。	(1) 家族の面会 (2) 夜間の患者状態および心理 (3) 就寝前の準備
5. 病棟の看護管理を理解できる。	1) 病棟看護管理者と行動を共にし、病棟管理について知ることができる。	(1) 業務管理 (2) 勤務計画 (3) 倫理的管理 (4) 情報の伝達と共有 (5) 接遇 (6) 物品管理 (7) 環境管理 (8) 職員教育
	2) 病棟における医療安全対策のあり方・危機管理対策について学ぶことができる。	(1) 医療安全対策 (2) 危機管理対策

<方法>

1. 事前に看護総合実習オリエンテーションを受ける。
2. 実習初日に病棟オリエンテーションを受ける。
3. 学生間でチームをつくり、複数の患者を受け持つ。
4. 受け持ち患者制とし、グループ(5~6人)で複数の患者を受け持ち、チームナーシングを展開する。
5. 受け持ち患者に対しては、看護過程のプロセスに基づいて看護を展開する。
6. 学生チームリーダーを体験する。
7. 学生チームメンバーを体験する。
8. 病棟看護管理業務を見学する。
9. 夜間勤務を体験する。

<時間>

8:00~16:30 (夜間実習は実習施設の時間帯に準じる)

<提出物>

1. 行動予定表
  2. 受け持ち患者記録(グループ全体で)
  3. 自己評価表
  4. 看護技術チェック表
- \* 提出物は担当教員が指示した期日に提出

# 実習計画

## 看護総合実習

### 事前オリエンテーション

月日	月 日 ( )	
目 標	1. 看護総合実習の目的・目標が理解できる。 2. 看護総合実習に関する基礎的知識や技術を 確認することができる。	
内 容	午前	看護総合実習オリエンテーション 事前学習

### 1週目

今週の目標	1. 各自、対象のよりよい看護に必要な情報収集ができる。 2. 各自が分析解釈したものをチーム間で共通理解し、整理できる。 3. チーム間で看護上の問題を明確にできる。 4. チーム間の一致した考えのもとに看護計画が立案できる。 5. 病棟看護管理者と行動を共にし、病棟管理について知ることができる。 6. 病棟における医療安全対策のあり方・危機管理対策について学ぶことができる。 7. 対象および職員と状況に応じた対応をすることができる。 8. 科学的根拠を明確にした行動予定表を書くことができる。 9. チーム間でのミーティングやカンファレンスでは、他者の考えや意見を自分の考えにいかし発言することができる。				
月日	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	月 日 ( )	
学生 の 行 動	学生A	/	病棟リーダー見学	ケアの実施報告	病棟看護管理見学
	学生B		病棟リーダー見学	ケアの実施報告	病棟看護管理見学
	学生C		病棟看護管理見学	病棟リーダー見学	ケアの実施報告
	学生D		病棟看護管理見学	病棟リーダー見学	ケアの実施報告
	学生E		情報収集・ケア見学実施	病棟看護管理見学	病棟リーダー見学
	学生F		情報収集・ケア見学実施	病棟看護管理見学	病棟リーダー見学
全体	挨拶 オリエンテーション 受け持ち患者紹介 情報収集 ケア見学 ショートカンファレンス 終了の挨拶	挨拶 申し送り参加 朝のミーティング 行動予定表発表 情報収集・ケア見学 ケアの一部実施報告 ショートカンファレンス 終了の挨拶	挨拶 申し送り参加 朝のミーティング 行動予定表発表 ケアの実施報告 ショートカンファレンス 終了の挨拶	挨拶 申し送り参加 朝のミーティング 行動予定表発表 ケアの実施報告 ショートカンファレンス 終了の挨拶	
カンファレンス・ 評価など				中間評価	
看護過程展開	アセスメント	アセスメント	問題の明確化	計画	

## 2週目

今週の目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>メンバーの役割を果たせるように努めることができる。</li> <li>リーダーの役割を果たせるように努めることができる。</li> <li>看護チームの意義・機能について説明できる。</li> <li>チームで一貫した看護が実施できる。</li> <li>行った看護について、チーム間で評価、修正できる。</li> <li>夜勤看護師と行動を共にし、夜勤の看護業務を体験できる。</li> <li>夜勤看護師と行動を共にし、夜間の対象の様子を知ることができる。</li> <li>中間評価の自己の課題に取り組むことができる。</li> <li>限られた時間の中で、効果的なミーティングやカンファレンスを行うことができる。</li> </ol>				
月日		月 日( )	月 日( )	月 日( )	月 日( )	月 日( )
学生の行動	学生A	チームとして看護展開	チームとして看護展開 午後は自己学習	チームとして看護展開	チームとして看護展開	夜間勤務体験
	学生B					夜間勤務体験
学生C						
学生D						
学生E						
学生F	チームとして看護展開					
	全体	挨拶 申し送り参加 朝のミーティング 行動予定表発表 ケアの実施報告 ショートカンファレンス 終了の挨拶	挨拶 申し送り参加 朝のミーティング 行動予定表発表 ケアの実施報告 ショートカンファレンス 終了の挨拶 午後は自己学習	挨拶 申し送り参加 朝のミーティング 行動予定表発表 ケアの実施報告 ショートカンファレンス 終了の挨拶	挨拶 申し送り参加 朝のミーティング 行動予定表発表 ケアの実施報告 ショートカンファレンス 終了の挨拶	
カンファレンス・評価など		中間評価		カンファレンス		
看護過程展開		実施・評価	実施・評価	実施・評価	実施・評価	実施・評価

## 3週目

今週の目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>メンバーの役割を果たせるように努めることができる。</li> <li>リーダーの役割を果たせるように努めることができる。</li> <li>看護チームの意義・機能について説明できる。</li> <li>チームで一貫した看護が実施できる。</li> <li>行った看護について、チーム間で評価、修正できる。</li> <li>夜勤看護師と行動を共にし、夜勤の看護業務を体験できる。</li> <li>夜勤看護師と行動を共にし、就寝前の対象の様子を知ることができる。</li> <li>実習を振り返り、今後看護師としての自分の課題を明確にすることができる。</li> </ol>					
月日		月 日( )	月 日( )	月 日( )	月 日( )	月 日( )	
学生の行動	学生A	チームとして看護展開	チームとして看護展開	チームとして看護展開	チームとして看護展開	学内で記録のまとめ	
	学生B						
	学生C						夜間勤務体験
	学生D						夜間勤務体験
	学生E						チームとして看護展開
	学生F						夜間勤務体験
	全体	挨拶 申し送り参加 朝のミーティング 行動予定表発表 ケアの実施報告 ショートカンファレンス 終了の挨拶	挨拶 申し送り参加 朝のミーティング 行動予定表発表 ケアの実施報告 ショートカンファレンス 終了の挨拶	挨拶 申し送り参加 朝のミーティング 行動予定表発表 ケアの実施報告 実習全体の反省会 終了の挨拶			
カンファレンス・評価など		カンファレンス	最終評価	最終評価			
看護過程展開		実施・評価	実施・評価	実施・評価	実施・評価		

# 追加資料

公益財団法人 磐城済世会  
松村看護専門学校  
学校長 ○○ ○○ 様

## 誓約書

私は、実習で知り得た患者のプライバシーおよび個人情報保護のため、以下の事項を厳守し、行動することを誓います。

(以下)

1. 情報は匿名化・記号化・番号化し、個人が特定されないよう留意して記録いたします。
2. 不必要な情報および不確実な情報は記録いたしません。
3. 実習記録やメモ等、患者情報が記入されている記録物は複写いたしません。また、患者情報のパソコンへの入力もいたしません。
4. 患者情報は、実習施設および学内において必要時以外話題にいたしません。また、それ以外の場所においては一切話題にはせず、携帯電話等通信機器での情報交換および保存も行いません。
5. 実習記録物の自宅持ち帰りを行う場合は、各実習施設で決められている用紙のみとし、紛失や交通機関での置き忘れ、自家用車への長時間放置等のないよう管理いたします。
6. 実習記録は、実習施設、学内、自宅(自室)で行い、実習関係者以外の目に触れることのないように管理いたします。帰宅途中および帰宅後も実習記録物は指定のファイルから外しません。
7. 万が一実習記録物やメモ類が紛失した際には、速やかに担当教員に報告いたします。

(以上)

令和            年            月            日

                  回生    学番            氏名                    印

## 臨地実習説明書

\_\_\_\_\_様

松村看護専門学校 年生 \_\_\_\_\_の臨地実習にあたり、  
令和 年 月 日より 月 日までの間、受け持ちとして日常生活の  
援助及び診療の補助等の看護援助をさせていただきたく存じます。

なお、学生の臨地実習は、以下の基本的な考えのもとに臨みます。看護教育の必要性を  
ご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

1. 学生が看護援助を行う場合、事前に十分かつ分かりやすい説明を行い、患者様（ご家族）の同意を得て行います。
2. 学生が看護援助を行う場合、患者の安全性の確保を最優先とし、事前に教員や看護師の助言・指導を受け、実施可能なレベルにまで技術を修得させてから臨ませます。
3. 患者様・ご家族は、学生の実習に関するご意見やご質問があれば、いつでも教員や看護師に直接たずねることができます。
4. 患者様・ご家族は、学生の受け持ちに協力した後も、学生が行う看護援助に対して無条件に拒否することができます。また、拒否したことを理由に看護及び診療上の不利益な扱いは受けません。
5. 学生は、臨地実習を通して知り得た患者様・ご家族に関する情報については、実習中及び実習終了後もプライバシーの保護のため、これを他者に漏らさないことを遵守します。
6. 学生は、学内・外の学習で実習に関する情報を取り扱う場合がありますが、個人が特定されないよう管理します。

私、\_\_\_\_\_は、看護学生の臨地実習について説明を受け、その  
必要性を理解したので協力をします。

（ご家族または、代理の方の場合は、本人との関係を記入）

令和 年 月 日

説明者 \_\_\_\_\_

〇〇〇〇病院 病院長 〇〇 〇〇

公印省略

松村看護専門学校 学校長 〇〇 〇〇

公印省略

## 実習時の災害の対応について

松村看護専門学校

実習時または実習先への途中で災害にあった時は、次のことを守ってください。

1. 周囲の状況に応じてあわてずに、まず身の安全を確保する。
2. 原則として実習時の担当教員の指示に従うこと。  
担当教員がいない時は、実習先の責任者の指示に従うこと。
3. 学校へ報告する。
  - ① 担当教員が報告する。担当教員がいない時は学生のリーダーが報告する。
  - ② 携帯電話または固定電話で連絡する。通じない時はメールで連絡する。  
学校☎ 0246-22-9916  
携帯電話 080-6055-1309  
mailアドレス sirayuri@matsumura-ghp.or.jp
  - ③ それでも通じない時は、事後連絡とする。
4. 各自準備しておきたい非常持出品
  - ① 懐中電灯(予備の電池、電球も忘れずに)
  - ② 携帯ラジオ(AM、FMの両方が聞けるもの)
  - ③ 救急医薬品
  - ④ その他(タオル、マスク、軍手、雨具、帽子、ビニール袋、水 等)

## \*学内演習及び実習における正式な服装・身だしなみについて\*

人の命に関わる専門職人となるためには、ルールを守ることが必要です。また、患者さんとの信頼関係を築くためには、身だしなみを整えることが大切です。お互いに確認し気をつけていきましょう。

### 校章

- ✓ 左襟につける

### 名札

- ✓ 左胸ポケットにつける(名札に装飾はしない)

### ユニフォーム

- ✓ 清潔なものを着用する(シワやシミ、汚れがない)
- ✓ パンツは正しい位置で着用する
- ✓ インナーのラインや柄が出ないように、無地で目立たない色を着用する
- ✓ カーディガンは袖口から手を出すように着用する

### 靴下

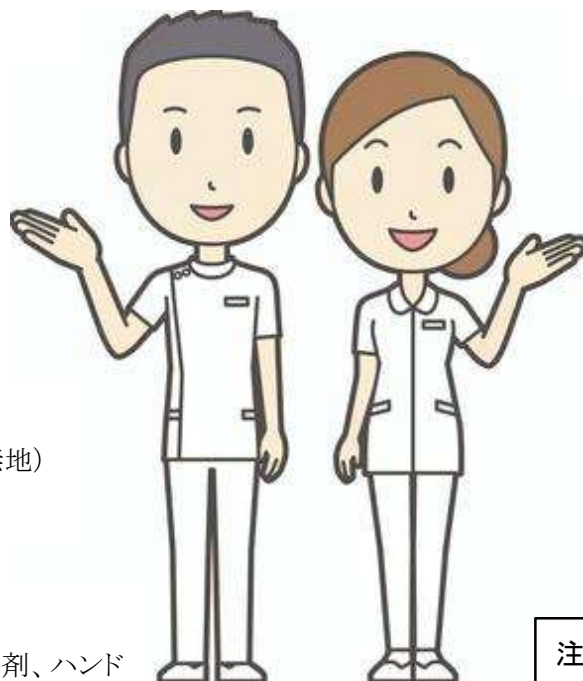
- ✓ 清潔な白い靴下を着用する(ラインやワンポイントのない無地)
- ✓ ソックスやハイソックスを着用する(くるぶしが隠れる丈)

### 靴

- ✓ 清潔なものを使用する
- ✓ 踵(かかと)を踏まない

### 香料

- ✓ 制汗剤、整髪剤、柔軟剤、ハンドクリームなどの香りは控える



### 頭髪

- ✓ 前髪が目にかからない(下を向いたときに顔にかからない)
- ✓ 長い髪は後ろで1つにまとめ、ネットを使用して束ねる
- ✓ ゴムやピンの色は黒(装飾がないもの)
- ✓ 髪色は許可されているカラーとする(カラースケール6まで)

### 化粧

- ✓ 過度な化粧は控える
- ✓ ファンデーションとアイブロウのみ可
- \*つけまつげ、ピアス、カラーコンタクトレンズなどの装飾品はつけない

### 爪

- ✓ 角は丸く切り、爪を伸ばさない
- \*マニキュアや付け爪はつけない
- \*深爪になりすぎないように注意する

注意:身だしなみのルールが守れない場合は、演習や実習の参加は認めません。

# 実習態度

評価観点	評価尺度			
	とても素晴らしい 5点	できたね 3点	しっかり振りかえろう 1点	評価除外 0点
責任感	<b>責任ある言動がとれる。</b> ①患者にケアするときには理由や必要性を説明し同意や了解を必ず得る。 ②相手の都合をうかがい、報告・相談が適切にできる。 ③実習施設・病棟において指示されたルールを守る。 ④疑問点、不明点は必ず確認し解決している。 ⑤所在を明らかにしている。 ⑥約束や指示された事項を守ることができる。 ⑦提出期限や時間を守る。 ⑧欠席・欠課・遅刻・早退がない。(体調不良以外) ⑨事前課題の提出期限を守ることができる。	指導を受けて左記行動がとれる。	指導を繰り返し受けても左記行動がとれない。⑨事前学習の提出期限が守れない、かつ指導されても内容が不十分だが、1回でも提出している場合1点。点数加算なし。	評価対象外 ⑨事前学習の提出期限が守れない、かつ指導されても内容が不十分な場合。点数加算なし。
健康管理	<b>心身共に自己の健康管理ができ、実習に臨んでいる。</b> 体調不良による欠席・欠課・遅刻・早退は健康管理で評価する。それ以外の場合は責任感で評価し、どちらかで評価する。	心身の健康状態に応じ、報告・連絡・相談を行い実習に臨んでいる。	指導を繰り返し受けても健康管理ができず、健康状態に応じた報告・連絡・相談が不十分である。	評価対象外 健康管理ができず、健康状態に応じた報告・連絡・相談がない。
情報管理	<b>情報管理が適切にできる。</b> ①記録には個人が特定できないよう表記する。 ②学習の目的以外で実習関連の話はしない。 ③ <b>実習記録やメモなどの取り扱いルールを守り紛失しない。</b> ④ <b>実習に関連する情報をSNSなどに掲載しない。</b>	指導を受けて左記行動がとれる。	指導を繰り返し受けても左記行動がとれない。	評価対象外 ③④の太字に関しては、1度でも行えば点数加算はなし。
礼儀	<b>礼儀正しい言動がとれる。</b> ①誰にでもいつでも明るく笑顔で挨拶ができる。 ②病室の出入り時は挨拶ができる。 ③正しい丁寧な言葉遣いができる。 ④感情を外に出して他者に不快な感じを与えない。 ⑤清潔で快い感じを与える身だしなみができる。	指導を受けて左記行動がとれる。	指導を繰り返し受けても左記行動が不十分である。	評価対象外 指導を繰り返し受けても左記行動がとれない。
積極性	<b>積極的に実習を行っている。</b> ①カンファレンスなどで積極的に発言できる。 ②他者の意見に賛同、または賛同しない理由を明確に言える。 ③疑問点、不明点は積極的に解決する姿勢がみられる。 ④周囲の状況に合わせて率先して行動できる。	指導を受けて左記行動がとれる。	指導を繰り返し受けても左記行動が不十分である。	評価対象外 指導を繰り返し受けても左記行動がとれない。
感染予防	<b>目的と根拠を理解し、感染予防行動がとれる。</b> ①正確な手技で手指衛生ができる。 ②正確な個人防護具の装着や取り扱いができる。 ③使用物品、排泄物などの後始末ができる。 ④適切なタイミングで手指衛生ができる。	指導を受けて左記行動がとれる。	指導を繰り返し受けても左記行動が不十分である。	評価対象外 指導を繰り返し受けても左記行動がとれない。

出席時間  
欠課時間  
遅刻  
早退

総計
総合評価

担当教員

**【評価基準】**

優:80点以上  
良:70～79点  
可:60～69点  
不可:60点未満  
印

## パソコンでのレポート・評価作成方法

### 1. レポート及び評価の作成方法について

- レポート及び評価の作成方法は、学生が手書きまたはパソコンでの作成を選択できる。  
(指定がない場合)
- レポート及び評価を作成する際には、**匿名化の規定を必ず守る**。(実習要項 P8 参照)

### 2. 評価について

	手書き	パソコン作成(word)
評価発表時間	15 分以内	
総文字数	-	6000 文字以内
用紙指定	なし	なし

### 3. レポートについて

	手書き	パソコン作成(word)
表紙の作成	あり	あり
文字数指定	なし	なし
用紙指定	あり※ <sup>1</sup>	あり※ <sup>2</sup>

※ 1 学校指定の原稿用紙を使用する。

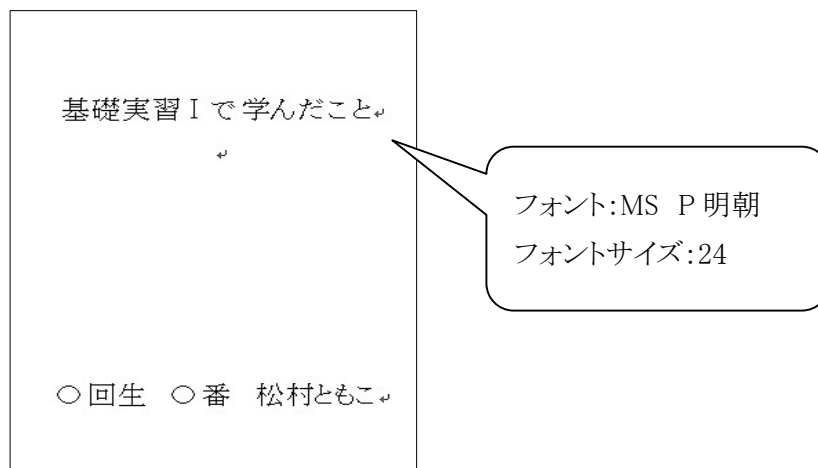
※ 2 学校名の入ったレポート用紙を各自購入して使用する。

### 4. パソコン使用時の指定(評価・レポート共通)

- 本文は、作成前に以下の設定を行ってから開始する。

フォント種類	フォントサイズ	文字数	行数
MS P 明朝	11	38 文字	40 行

- 表紙の記入例



## 事前学習の目的・方法について

- 目的:
1. 各実習の目標を達成するために既に学んだ知識を確認して、事前学習を活用しながら実習に臨めるようにする。
  2. 知識を整理することで、補足事項を明らかにして追加する。

- 方法:
1. ファイルを準備し、インデックスなどを使用してまとめる。
  2. ファイルには実習名・氏名をつける。または、記入する。
  3. プラパッチを全ページに貼付する。
  4. 実習要項・評価表などの分からない語句は調べて、それらも記入する。
  5. 資料をコピーした場合、要点にアンダーライン等を記入する。
  6. 具体的な事前学習の実施方法は、各領域の事前学習プリントに準ずる。
  7. 実習場に持参し、自ら実習中に活用する。
  8. 提出期日を厳守し提出する。

### 【注意事項】

- ・ 文献のコピーのみは不可とする。
- ・ 事前学習不備は、実習準備不足のため臨地での実習不可となる。

## 看護計画手順書

目的： 看護計画の具体策と連動させて、個別性のある安全・安楽なケアを行うために記載する。

- 方法：
1. A4のルーズリーフ紙に**手書き**で作成する。(ファイリングできるようにする)
  2. 自宅で記載してよい。
  3. 原則としては、ケア前日の朝に指導者・教員に提出して指導を受ける。
  4. 個人名など特定される内容は記載しない。  
実習要項：VI. 患者のプライバシーと情報や保護の内容を遵守する。
  5. 実習終了後、実習記録に綴じて提出する。
  6. 枚数が複数枚に及ぶ場合には、**ホチキス止め(左上)**をして提出する。
  7. 作成した物は原本とし、コピーした物に個別性を記入し各実習で使用する。

- 内容：
1. 目的
  2. 必要物品
  3. 手順、根拠・留意点、観察項目
- \* 文章では表現し難いものに関しては、**部分的に**イラスト・写真の貼付可能

記入例： \*パソコンでの作成不可

援助名 ○○回生 △番 氏名

目的：  
患者にとっての目的を記載

必要物品：  
○

手順	根拠と留意点	観察項目
1. _____		
<span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">追記できるようにスペースを空けて記入</span>		
2. _____		

穴をあけてプラパッチ貼

## よい集団討議を行うために

### 1. よい集団討議とは

- 1) 自分たちの疑問や考えから出発し、
- 2) みんなが十分考えて、
- 3) よく話し合い、
- 4) できるだけ短い時間で、
- 5) 一番よい考えを導きだし、
- 6) 討議したことをいかせる。

### 2. 司会者の役割

#### 1) 思考過程の援助

- (1) 検討する点を明確にする。
- (2) 論理的な考え方の筋を追求し、末節の問題にとらわれないように導く。
- (3) 討議が横道に逸れたり、後戻りしないように導く。
- (4) 検討事項を分析、整理、統合する。
- (5) 結論を導く。

#### 2) 集団に対する配慮

- (1) 開会・閉会の時間を守る。
- (2) 楽しい・和やかな雰囲気ですすめられるようにする。
- (3) 公平に発言の機会を与える。
- (4) 司会者自身の発言は慎む。もし、司会者が意見を述べるときは、意見を押し付けるような感じを与えないように注意し、「このような考え方もあるのではないか。」などと述べる。
- (5) 発表者や参加者に対して感謝する。

### 3. 司会者の心得

- 1) 発表者の意見が間違っていると思っても、感情的にならずに冷静に。
- 2) 一人の意見は最後まで聞く。
- 3) みんなの意見をまとめ、少数意見でも尊重する。
- 4) 抽象論や一般論をなるべく避けて、具体的に討議を進める。
- 5) なるべく多くの人に発言してもらう。
- 6) 会の後で不平不満を残さない。
- 7) 司会者は会の終わりに出た意見をまとめたり、確認したりする。

#### 4. 書記の役割

- 1) 次の事項を記録する。
  - (1) 会の日時、場所
  - (2) 司会者名、書記名、参加者名
  - (3) 議題
  - (4) 討議内容
  - (5) 討議結果
- 2) 司会を助ける。

#### 5. 発言者の心得

- 1) 発言の冒頭に要点を述べる。
- 2) 発言の内容を簡単明瞭にするために、たとえば、箇条書的に述べる。
- 3) 発言の内容を明らかにする。質問か。決定的な意見か。思考途中の意見か。

#### 6. 集団討議参加者の心得

- 1) 発言権を得てから発言する。
- 2) 他人の発言をよく聞き、意見内容を分析し、理解する。
- 3) 発言内容が不明瞭だったときは質問する。
- 4) 発言内容が理解できなかったときは質問する。
- 5) 場の流れにあった発言をするなどして、司会進行に協力する。
- 6) 賛否に対する自己の意思表示をし、必要時その理由を述べる。
- 7) 感情や興奮を除外し、冷静な態度を保つ。
- 8) 妥協を排除し、正当性を尊重する。



## 実習記録の綴り方・提出の仕方 【3年間共通】

1. 実習記録の綴り方 : 枚数チェック表の順番通りに、ファイリングする。

### ✿詳細✿

- 記録用紙すべてにプラパッチを貼付する。
- メモ用紙は、ナンバリングして管理する。

1	行動予定表
2	I号用紙
3	II号用紙
4	関連図
5	IV号用紙
6	バイタルサイン用紙
7	看護計画手順書
8	その他 プロセスレコード ライフヒストリー など
9	メモ

2. 記録提出時の綴り方 : 基本は枚数チェック表の順番で綴る。

### ✿詳細✿

- 記録は、黒紐で綴る
- メモは、名前を記入してホチキスで止めて（左上1か所）提出する。

1	表紙
2	枚数チェック表
3	行動予定表
4	I号用紙
5	II号用紙
6	関連図
7	IV号用紙
8	バイタルサイン用紙
9	看護計画手順書
10	その他 プロセスレコード など
11	評価表

-----

メモ
----